近森（コーチ兼任）、飯田、下里、有永、本田、新実
木野（主将）、野田、早川、中井、氷海、佐々木
ミュンヘンへ、史上最強の全日本を派遣

長いあいだ待っていた日が来た――6月11日、日本協会は今夏8月ミュンヘン（西ドイツ）で開かれる第20回オリンピック大会に派遣する12人（うちコーチ兼任1）の選手名を発表した。心技体三拍子揃った現代最高のプレイヤーによる「全日本」は斯界が自信をもって檜舞台へ送り出す史上最強チームであり、斯界35年の結晶とも、新しい球史の出発点に立つ若さの象徴ともいえよう。日本ハンドボール史上初のオリンピック選手に寄せられる内外の期待は極めて大きい。なお、近森克彦選手がコーチ兼務、木野実選手が主将をつとめる。

〝代表決定〟の報を聞いた各選手はいずれも「期待に応えるようベストをつくし、上位入賞の力となりたい」と前おきし、その喜びを次のように話している。

近森克彦コーチ兼選手…勝ちたいの一言につきる。責任感に押しつぶされることなく本番でもリラックスして全力を発揮できるようなムードを造りあげたい。思い出の多い西ドイツにオリンピック選手として再び訪れることができるのは嬉しい。

木野実主将…これまでの国際試合とはまったく異る雰囲気で大会は行われるだろう。その場で勝つためには心技一層の充実が必要だ12人の少数でもあり持久力も養いたい。僕なりの目標は初めて全日本入りした時の〝原点〟に立ち戻って考えるつもりだ。

飯田誠行選手…今や外国選手に対するコンプレックスはまったくない。思う存分戦う。人間的にもいい男ばかりが揃っているのでチームをまとめていく以前におのずとまとまっていくと思う。

下里敏彦選手…混成の全日本が単独チームのように総ての面で溶けあうことが成績に反映する。幸い全員の気心も知れているので自信は充分だ。

早川清孝選手…夢みたいだ。これまで私を育て励ましてくれた先輩たちに心からお礼をいいたいと思います。

野田清選手…責任と同時にやり甲斐があると思った。自分のプレーは欧州勢にも覚えられてきたし前回の世界選手権より苦しいことを覚悟、限界に再挑戦したい。

本田洋選手…これまでの欧州遠征（2回）で得たもの、帰国後考えたものを試してみたい。

ＧＫ生活10年目。これまで指導して下さった先輩、とりわけ大阪イーグルスの先生たちの励ましに改めて感謝したいと思っています

有永修二選手…2年前の世界選手権の選衡で落ち、この次はという意地はあったがそうガッガッやって来たわけではない。自信をもって臨みたい。

中井武三選手…遠征先の鹿児島で〝決定〟を聞いたが、実感がまだ湧いてこない。時間がたつにつれ嬉しさと責任感が迫ってくるだろう。

氷海正行選手…自分より秀れた人がいるのに代表に選ばれたなんて信じられなかった。ヨーロッパには初遠征だが、自分の力がどこまで通じるのか試してみたい。

新実俊夫選手…嬉しい。稲石三二先生（恩師）や両親、会社の人たちのお祝いの言葉をうけているうちに自分のおかれている立ち場の重大さに身が引きしまった。

佐々木健一選手…決定の電報をうけとった時の感激は忘れられない。涙をこらえるのがやっとだった。僕は本当についていると思う

コーチ（補助役員）に竹野奉昭氏

補助役員としてのコーチには竹野奉昭オリンピック対策部員（35才・日体大出・大崎電気、ナショナルチームコーチ）が決まった。日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）から配当されていたのは役員1、補助役員1だが、競技日程からみて選手を一人でも多く送るべきだとして役員を選手（ただしコーチ兼務）に振り替え、補助役員を〝実質的な監督〟とする常務理事会の基本方針によったものである。なお、村田弘ナショナルチームヘッドコーチは「オリンピック対策部長」の資格で日本協会により現地へ派遣、コート外からチームを援助する。

（竹野コーチの談話は2頁）

「ハンドボール」7月号（第99号）目次

オリンピック代表決る……(1)
評議員会理事会……(2)
オリンピック代表の横顔……(4)
オリンピックとハンドボール②……(6)
第一九回ＮＨＫ杯選抜ハンドボール……(8)
第六回学生日韓交流……(12)
第一三回女子実業団選手権展望……(16)
実業団トーナメント……(17)
日韓女子実業団交流報告②……(20)
春季学生の記録……(22)
インターハイ予選記録……(26)
各地の記録……(30)
明日への提言……(32)
編集後記……(32)

【表紙写真】第六回日韓学生交流最終戦、関東選抜―慶熙大。於東京体育館

「上位入賞」へ固い決意

初のオリンピック参加

～全国評議員会・理事会開く～

選手、コーチなど"原案"通る

日本協会は6月11日東京・岸記念体育会館でミュンヘンオリンピック代表選手決定のため臨時全国評議員会（定数52、出席9、委任状33、欠席～白紙委任～10・成立）と同全国理事会（定数35、出席21、成立、委任状6、欠席～白紙委任～8。ほかに監事1出席）を開いた

◇

午前10時から開かれた全国理事会はまず荒川理事長が日本オリンピック委員会（JOC）の選手ワク配分について報告、ただちにオリンピック代表選手12名（うち1名コーチ兼任）の決定に入った。

執行部（常務理事会）原案に対し各理事とも厳正な選衡過程を経たものと判断、二、三の質問が行われただけで近森選手のコーチ兼任、木野選手の主将も含めた総てが承認された。

つづいて補助役員（コーチ1名）の決定へ議題が進んだが、これまでナショナルの監督をつとめていた村田弘氏（オリンピック対策部長）が日本協会派遣となって、いわばアシストとなり、竹野奉昭氏（オリンピック対策委員、ナショナルチームコーチ）が実質的な監督として陣頭指揮するようになった"経過"に論議が集った。

補助役員の推せんは前日の月例常務理事会によって行われ、この時も2時間近い協議の末、竹野氏にまとまったもので（全員一致）結局、荒川理事長の説明による「竹野氏の若さ、積極性、予選リーグで対戦するユーゴ、ハンガリー、アメリカ各国と、選手としてもコーチとしても対戦経験がある」などの推せん理由を了承、ミュンヘンへ送りこむ全メンバーが決定した。

このあと、今夏8月ニュウルンベルグ（西ドイツ）で開かれる第13回通常国際ハンドボル連盟（IHF）総会について協議が行われたが。IHFから同総会の議題が未着なため、詳細については後日の会長、副会長、理事長会議に一任された。

なお、同総会には担当の渡辺副会長、河内海外駐在代表（在ミラノ）が出席する。12時35分閉会。

◇

午後1時から開かれた全国評議員会は、理事会同より荒川理事長がJOCの派遣ワクについて報告したあと、代表選手（12名、うち1名コーチ兼任）、補助役員（コーチ1名）、日本協会派遣役員（1名）を一括して推せん、特に質疑もないまま野原（大阪）、油谷（石川）両評議員から激励の言葉が送られて、日本協会が発足以来"宿願"としていたオリンピックへ初参加する「日本ハンドボール協会代表団」はきわめてスムースに正式決定をみた。この日の会議は日本ハンドボール史上永く記憶されるべきものであろう。

引きつづき、IHF総会に臨む日本協会の態度について協議が行われたが、理事会同より特に大きな発展をみるような発言はなく終った。

自由議題では野原評議員から「各全日本大会の審判員構成について合理的な施策を期待したい」旨の発言があり、荒川理事長は、「地方差の解消が先決だが、現状より少しでも合理的な方法を採るよう検討する」ことを約した。

なお、評議員会、理事会いずれも会議途中で竹野コーチ、村田オリンピック対策部長が「上位入賞」を目指す固い決意を述べ拍手をあびた。

2時10分閉会。

＜注＞竹野コーチは選手団と宿舎（選手村）などすべて同一行動をとれるが開閉会式には参列できない。村田部長は選手団外行動だがIHF規則内でベンチ入りができるよう日本協会では研究中。

「選衡委・案」無修正で承認

全国会議に備えての月例常務理事会は6月10日東京（体協）で行われ、オリンピック補助役員について協議、別掲（選衡経過）のとおりオリンピック対策委員・竹野奉昭氏を選出。小憩後、代表選手の審議に入り、選衡委員会原案をまったく無修正で承認した。

"ベスト8に全力" 竹野コーチ語る

オリンピックチームのコーチ（補助役員）に決まった竹野奉昭氏は6月11日体協記者クラブで次のように抱負を語った。

目標は予選を勝ち抜いてベストエイトに進出することにおく。そのためには第1戦のユーゴスラビア戦に全力を注いでみたい。

日本がこれまで世界選手権で得た最良の成績は10位だし、ベスト8の壁は厚いが、どうしてもこの難関を突破したい。

力、技ともに史上最強の陣容であり、自信をもって戦う。

選衡経過

◆選手　6月9日午後5時から東京・日本ハンドボール協会室に選衡委員全員（荒川委員長、村田、勝、渡辺慶、安藤、栗脇、杉山、竹野、北川）と田村会長が参集して非公開で行われた。

まず、選衡基準として「上位入賞をめざし、ヨーロッパ勢の体力気力に充分対抗できる」ことを決定、日本チームの基本戦法として「固い積極的な守備から速攻への敏速な切り替え、立体的な攻撃策戦」を確認した。この2点に沿って体力、気力、俊敏性、キャリアを大綱に攻防両面でのフットワーク、守りの強さ、個性ある技巧などの面から選衡に当たった。

審議はFPから始まり第2次候補14人の中からチームの軸となるべき6人とそれに準ずる3人を各ポジションを想定してリストアップ。残り5人についてはマイナス点が審議された。しかしこのうちの3人は充分戦力になると判断、二人のみを脱落させた。

軸としてあげられた6人についても意見が分かれ、他の6人と併せて12人を改めて細かく分析。開会から3時間後にまず7人が決まった。

残るは5人のうち3人。各委員の意見が分散。平行線をたどった

ナショナルB（男・仮称）の編成具体化へ

日本協会技術指導部は懸案の「男子ナショナルBチーム（仮称）の編成について」その基本構想を明らかにした。

6月10日の月例常務理事会で勝繁夫同部々長から発表されたもので、それによると「ナショナルB」に選抜されるのは満22才以下の若手約20名で、とりあえず今年度は11月の全日本学生選手権終了後にリストアップ、来春1月または2月に4日間の強化合宿（東京）を予定している。

注目されるのは、ナショナルB（仮称）の選手は22才を過ぎてもチームに入れない場合は自動的に資格を失うとしていることである選考の対象を全日本高校、全日本学生、全日本実業団においているところから、高校生で選抜されたような有望選手は、かなり長期の〝一貫訓錬〟を受けることになる。また、A・B両チームの入れ替えを積極的に行うともしており、Aチームの選手にとっての刺激剤にもなるだろう。

なお、選手の選考は技術指導部の委員によって行われる。

日本協会は同案を無条件で受け入れており、細目の決定が待望されている。

縮まるかトップとの断層

＜解説＞「ナショナルと若手の断層が早いところ手を打たねばなりません」――昨秋のスウェーデン戦以後、アジア予選をはさんで今春まで若い有力選手を探し求めて歩いた村田弘オリンピック対策部長の感想である。

今回の発表はその打開策の第一弾として早くも大きな期待を集めている。

日本のハンドボール界が世界レベルのA級の下といわれているのはホンの一にぎりのナショナルプレイヤーの〝実力〟によってであり、ピラミッド型の欧州各国とは比べものにならぬほどのうす板だ。

これまでの選手強化は世界選手権を前にした時だけのインスタント。ミュンヘンオリンピックだけはそうもいかず6年近くに亘って着々と積みあげて来たもの。しかしそれも最頂点だけで2年後の世界選手権、4年後のモントリオールを考えるといささか心もとない。

理想をいえば、ナショナルBのほかに10代による「ジュニア」も編成して欲しいところだが、強化費用などを考えると、とりあえず今回の発表だけで充分としたい。

田村（会長）―荒川（理事長）の構想では10月以降、オリンピック対策部を技術指導部に吸収するようだが、オリンピックをきっかけにして頂点強化対策の真のありかたというものを第一線コーチに充分検討してもらいたいものである。

なお、現在ナショナルチームは25名（うち12名がオリンピック代表選手）だが、Bを編成した場合の取り扱いについては詳らかにされていない。今後の課題の一つといえる。（S）

ミュンヘンオリンピック 予選リーグ日程

▽予選リーグ組み分け

・A組　デンマーク　スウエーデン　ソビエト　ポーランド
・B組　東ドイツ　チェコスロバキア　アイスランド　チュニジア
・C組　ルーマニア　西ドイツ　ノルウェー　スペイン
・D組　日本　ユーゴスラビア　ハンガリー　アメリカ
・各組上位２国が「準決勝リーグ」へ

▽日程

8月30日　(D)日本―ユーゴ
(19時・ギョッピンゲン)
(A)ソビエト―デンマーク
スウエーデン―ポーランド
(B)東ドイツ―アイスランド
チェコ―チュニジア
(C)ルーマニア―ノルウエー
西ドイツ―スペイン
(D)ハンガリー―アメリカ

9月1日　(D)日　本―ハンガリー
(20時15分・ボブリンゲン)
(A)デンマーク―ポーランド
スウェーデン―ソビエト
(B)東ドイツ―チュニジア
チェコ―アイスランド
(C)ルーマニア―スペイン
西ドイツ―ノルウエー
(D)ユーゴ―アメリカ

9月3日　(D)日　本―アメリカ
(18時15分・アウグスブルグ)
(A)デンマーク―スウェーデン
ソビェト―ポーランド
(B)東ドイツ―チェコ
アイスランド―チュニジア
(C)ルーマニア―西ドイツ
ノルウエー―スペイン
(D)ユーゴ―ハンガリー

・時間は現地時間

今冬に世界学生選手権

スウエーデン協会からこのほど伝えられた連絡によると、同協会は今冬12月末から来春早々にかけてスウェーデン各地で第5回世界学生（男子）選手権を開く。

日本協会では参加の可否を全日本学連に一任したが、申しこみ締切り日が6月15日にもかかわらず、6月8日受信であったためとりあえず検討期間を欲しいとし、締切日の延長を申請することになった

同選手権は36年に第1回を開き日本はこの時いちど参加している

が午後9時すぎ2人の選手が決まった。最後の一つの座はA選手4人支持、B選手同、C選手1人支持と分かれ、投票で決定する性質のものではないとの見解からついに翌日のコーチ推せん後に持ちこした。

GKは意見が散り、何度も特徴、欠点が洗いなおされた末、ようやくまとまり、午後10時50分散会した。

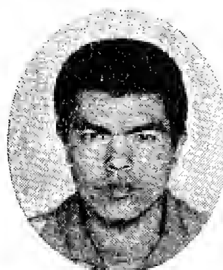
FP1人を決めるための10日の選衡委員会はコーチに推せんされた竹野氏の意見を重点とする前夜の申し合せにより15分足らずで決定、全選手が出揃い、東、藤中、斎藤。大村、大江、馬淵の6選手が惜しくも選にもれた。

◆補助役員（コーチ）13人の常務理事と田村会長、林、西、徳永3副会長の出席した6月10日の月例常務会で、常務理事のうち推せんの対象となる村田、勝、渡辺慶の3氏をはずして（退席）協議。

3氏のほか竹野、北川両コーチを加えた5氏全員に適性があると各常務理事が推せん、しばらく進展のないままにすぎたあと3氏にしぼられ、さらにアジア予選（昨秋11月・東京）の指揮をとった村田、竹野両氏が残り、延々とした議論がくり返され、結局、竹野氏の登用に落ちついた。

なお、途中5人以外の候補者名も出されたが却下された。

日本ハンドボール協会
オリンピック代表の横顔


GK本田　洋


GK下里　敏彦


FP木野　実


FP近森　克彦

FP　近森　克彦

（コーチ兼任）①大崎電気、②山口県出身、26才、③富田中（山口）ー徳山高ー芝浦工大ー日新製鋼呉ーハンブルグSV＝球歴14年、④昭42第6、昭45第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場33回、86得点）⑤41年9月⑥1m83、⑦78K

FP　木野　実

（主将）①湧永薬品、②大阪市出身、26才、③旭東中（大阪）ー寝屋川高ー立教大＝球歴11年、④第6第7回世回選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場33回、136得点＝33試合連続得点記録継続中）⑤41年9月、⑥1m82、⑦76K、⑧既婚

GK　下里　敏彦

①大崎電気、②熊本県出身、26才、③白川中（熊本）ー熊本市商＝球歴10年、④第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場21回）、⑤44年2月、⑥1m84、⑦73K、⑧既婚

GK　本田　洋

①大阪・初芝高教員（大阪イーグルス）②大阪府出身、25才、③三国丘中（大阪）ー堺工高ー本田技研鈴鹿ー日体大＝球歴11年、④第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場23回）、⑤44年2月、⑥1m79、⑦78K

FP　野田　清

①大同製鋼、②名古屋市出身、26才、③守山西中（愛知）ー愛知工ー立教大＝球歴13年、④第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征アジア予選代表（公式国際試合出場26回、57得点）、⑤44年2月、⑥1m70、⑦67K、⑧既婚

FP　飯田　誠行

①大崎電気、②京都府出身、26才、③松原中（京都）ー伏見工ー同志社大＝球歴11年、④第6、第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征アジア予選代表（公式国際試合出場31回、57得点）、⑤41年9月⑥1m87、⑦78K

FP　早川　清孝

①湧永薬品、②福岡県出身、25才、③玄海中（福岡）ー博多工ー日体大＝球歴10年、④第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場18回9得点）、⑤44年2月、⑥1m80、⑦74K、⑧既婚

FP　有永　修二

①東京海上火災、②大分県出身23才、③甲陵中（兵庫）ー西宮東高ー立教大＝球歴8年、④昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場14回、30得点）、⑤44年2月、⑥1m87、⑦83K

FP　中井　武三

①大同製鋼、②京都府出身、23才、③八条中（京都）ー伏見工ー同志社大＝球歴11年、④第7回世界選手権代表、昭44欧州遠征、アジア予選代表（公式国際試合出場12回、13得点）⑤44年2月、⑥1m80、⑦72K

FP　新実　俊夫

①本田技研鈴鹿、②名古屋市出身、23才、③本城中（名古屋）ー桜台高ー芝浦工大＝球歴7年、④アジア予選代表（公式国際試合出場5回、1得点）、⑤44年9月、⑥1m80、⑦78K

FP　氷海　正行

①千葉・八千代高教員（千葉教員クラブ）、②千葉県出身、22才③深川五中（東京）ー明星高ー日体大＝球歴10年、④アジア予選代表昭46全日本学生韓国遠征代表（公式国際試合出場6回、4得点）⑤


FP中井　武三


FP有永　修二


FP早川　清孝


FP野田　清


FP飯田　誠行

45年12月、⑥1m80、⑦75K

FP 佐々木健一

①中央大学(4年)、②東京都出身、22才、③深川五中(東京)―明星高、④昭46全日本学生韓国遠征代表（公式国際試合出場なし）⑤47年3月、⑥1m70、⑦70K

コーチ（補助役員）竹野奉昭

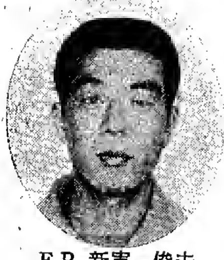
日本協会オリンピック対策部委員、大崎電気、熊本県出身、35才日体大出、昭36第4、昭39第5回世界選手権代表、昭45第7回世界選手権選手兼コーチ、昭44欧州遠征、アジア予選コーチ（公式国際試合出場28回、85得点）

オリンピック対策部長 村田 弘

（日本協会派遣役員）日本協会オリンピック対策部長（同常務理事）、大阪府立三国丘高教諭、大阪府出身、48才、昭42第6、昭45第7回世界選手権監督、アジア予選監督昭44欧州遠征監督



FP 氷海　正行



FP 新実　俊夫



FP 佐々木健一



コーチ　竹野奉昭



村田　弘
オリンピック対策部長

ヨーロッパ勢で占める五輪審判員

国際ハンドボール連盟（IHF）ではこのほどミュンヘン・オリンピックの審判員24氏（12ペア）と補欠審判員2氏（1ペア）を発表した。

地元西ドイツとスウェーデンが各2ペアを送りこんだのをはじめすべてヨーロッパ各国の審判員によって占められた。アジア予選に派遣されたH・カールソン、L・オルソン、スウェーデンナショナルに同行（46年9月）したT・ヤーネルスタムの3氏はいずれもリストアップされている。

【オリンピック審判員】O・ファルク、H・ロスマニス、E・レイチェル、W・テテン（以上西ドイツ）H・カールソン、T・ヤーネルスタム、L・ラルソン、L・オルソン（以上スウェーデン）J・ロデイル、P・オブダル（以上デンマーク）H・ヘンゼル、H・シーベルト（以上東ドイツ）U・レポ、H・ソーミネン（以上フインランド）V・シマノビク、M・パルシク（以上ユーゴ）K・ヒュゼビイ、K・ニルソン（以上ノルウェー）P・シルリゲアヌ、V・シデア（以上ルーマニア）H・バートジンガー、C・ガブリエル（以上スイス）L・ケステリイ、L・マルキ（以上ハンガリー）

▽補欠　J・ボルレス、S・ネメック（以上チェコ）

西ドイツ代表も内定

フランスのスポーツ紙〝レ・キプ〟（6月1日付）はミュンヘンオリンピック西ドイツ代表が次のように内定したと報じた。シュミット（グンメルスバッハ）ムンク（ダンケルセン）～ともに来日～の名前は見えずアマチュア問題をひきおこしていたルブキング（TUS・ネッテルステット）が噂どおり復帰したのが注目される。

▽GKボーデ、カーター、ラッセン▽FPフエルドホフ、ブラントベステベ、ブラウン、ランゲ、ブシエル、ミューラー、アーレンドセン、ルブキング、ロジエ、フインケルマン、ウエネート、カーレル

（注）カーター、フェルドホフ、ブラント、ベステベの4選手は昨春グンメルスバッハの一員として来日。

出発までに28日間の合宿
オリンピック代表

日本協会とオリンピック代表チームは今後の強化スケジュールなどを次のとおり決定、発表した。

▼強化合宿　▽第1次　7月5～13日、東京・駒沢体育館（8日のみ日体大）

▽第2次前半　7月21日～26日、郡山市・日大工学部体育館

▽同後半　7月27日～8月1日、仙台市・東北工大体育館

▽第3次　8月7日～13日、東京駒沢体育館

▼激励会　8月2日、山形県東根市（全日本高校選手権開始日）

▼日本選手団結団式　8月14日東京・岸記念体育会館（体協）

▼出発　8月17日、羽田（日本選手団第2便）

団長に青木半治氏

日本オリンピック委員会（JOC）は6月14日の常任理事会でミュンヘン・オリンピック日本選手団々長に青木半治氏（47才、JOC委員長、日本体協専務理事、早大出）を決めた。

JOCハンドボール代表承認

日本オリンピック委員会（JOC）は6月28日の総会（荒川理事長出席）でハンドボールの代表、役員兼選手1、選手11名をオリンピック日本代表として正式に承認した。

全日本総合の基準要項提案

日本協会企画委員会（総務企画部）ではこのほど「全日本総合選手権開催基準要項・案」を発表、できれば今秋の全国評議員会、理事会で承認を受けたい意向である。

同案は昨年の第23回全日本総合選手権（東京）を基準に成文化されたものだが、6月11日の全国理事会では「クラブ」の定義づけが必要であるという意見が出されたほか大会中の傷害問題、大会役員の構成などもつけ加えるべきだというみかたもあり、今後に残す課題は少くない。

同案で注目されるのは会期を12月、会場を原則として東京大阪・名古屋に規定、参加資格を加盟団体中心にしている点だ。

前頁の選手略歴の内⑤は全日本入り年月を示す

「東京実施」再度逃がす

～オリンピックとハンドボール②～

杉山　茂

ベルリン・オリンピック（一九三六）につづく第12回大会は一九四〇年（昭15）に予定された東京大会である。

東京でオリンピックを開こうとする機運は昭和4年頃から急速に盛りあがり昭和6年1月の東京市会で招致案を可決、7年の国際オリンピック委員会（IOC）総会に正式の招請状が提出された。

東京開催が決定したのは11年7月31日ベルリンで行われたIOC総会で、同じく立候補していたヘルシンキ（フィンランド）を投票の結果おさえてのものであった。

ハンドボール（11人制）を東京大会で行うかどうかにはさまざまな意見があり会議のたびに紆余曲折（うよきょくせつ）がみられた

正式な機関で最初にハンドボールの実施が検討されたのは筆者の調べたかぎりでは11年12月26日の第1回日本オリンピック委員会である。

席上、開催を希望する競技として陸上、水泳など14競技と芸術競技、将来研究を要する競技としてハンドボール、フェンシングなどがあげられた。

このあとハンドボールの採否は毎回の委員会で協議されながら結論が出ずに過された。当時国内におけるハンドボールは学校体育として行われていたにすぎず、もちろん日本ハンドボール協会はなく協会結成への胎動すらしていなかったのである。11年8月のベルリンオリンピックで初めて競技としてのハンドボールが認識されたといってよく、委員会の方向が定まらなかったのはムリもない。

年が明けた12年2月の第7回委員会で浅野均一委員（現日本ハンドボール協会顧問・日本陸上競技連盟名誉副会長）が「ハンドボールは我が国の中等学校の正課で将来普及向上も考えられる。日本陸上競技連盟としては同連盟内にハンドボールの委員会を設置してオリンピックでの実現を希望する」旨の説明を行ない、ようやく行く道が定まり実施へ大きなステップを踏んだかにみえた。ところが12年4月の第9回委員会では「ハンドボールは東京大会競技種目として希望せざることに決定、但し一、二年中に国内に著しく発達しかつ参加国多数となる見込みを得れば改めて議題とすること」と一歩後退をしている。

「15年9月・駒沢」を確定

ハンドボールの実施が正式に決まったのは12年6月ワルシャワ（ポーランド）で開かれたIOC総会で日本の示す22の実施競技と細目が承認された時である。

12年4月から6月にかけての2ケ月間日本陸連の関係者が奔走して国内での発達にメドをつけた結晶といえ、4月には慶大が、つづいて日体、青山師範、文理大（現東京教大）がハンドボール部を発足させた。また日本陸連内に日本ハンドボール協会設立のための準備委員会が設けられ、4月以降は「日本送球協会」を名乗り平沼亮三氏（故人）を会長に初代役員も揃えられた。（注、戦前はハンドボールを送球と称していた）。現副会長保坂周助氏（神奈川協会々長）は準備委員からそのまま初代理事となった一人である。

さて、実施決定と同時に具体的な準備が進められ会場として駒沢その他が候補にあがり、ベルリン大会にならって主競技場の使用も予定された。スケジュールも9月27、28、29、30、10月2日の5日間（注・大会は9月21日から10月6日まで16日間）と確定、日本ハンドボール協会はオリンピックを行うために結成されるという華々しいスタートを切った。

この間、12年10月22日国内初の公式大会として第1回関東選手権が、同11月1日からは第1回全日本選手権がいずれも東京・体育研究所で行われるなどした。全日本選手権は第9回明治神宮体育大会の陸上競技の一部として実施されたものである。

候補選手の合宿行う

13年2月2日には日本陸上競技連盟が持っていた国際アマチュアハンドボール連盟（IAHF）に対するボード（代表権）が日本送球協会に円満譲渡され、日本ハンドボール協会は名実ともに独立した競技団体となり12年4月以降11ケ月間の前史を経てこの日を公式的な「誕生日」と定めたのである

これよりさき13年1月の第5回選手強化委員会ではハンドボールの強化費として一、二五〇円が決定、選手強化も本格的なスタートが切られていた。

13年3月には慶大日吉グランドに27名のオリンピック候補選手と3人のコーチが最初の強化合宿のため集合した。バスケットボールサッカー、ラグビー、陸上からの転向者も多かったが、この5日間の合宿は日本ハンドボール協会が陸連から独立して最初に行った大事業として史上特筆すべきものといえよう。

5月31日付で日本体育協会に正式加盟、若いながらも躍進を期待される競技団体として注目をあび関東学生リーグも慶応、日体、文理、明治、早稲田の5大学によってその歴史の幕を開けた。

戦火拡がり大会中止

そうした情熱に水をさすように6月の第1回体協幹事会でIOCから「ハンドボール競技の参加国が5ケ国以上ない場合開催の義務はない」として来たことが報告された。ベルリン大会に参加していたドイツとオーストリアが合邦、という国際情勢の変化があったためで、関係者が採否の不安にかられたのも当然であった。

しかし、東京大会中止の運命は別のところで日一日とせまっていた。日華事変の進展がオリンピック返上を〝決定〟させたのだ。13年7月16日のことである。

ヘルシンキで公開競技

第2次大戦中、世界でも、日本でもハンドボールの灯は消えなかった。誰もが東京大会さえ開かれていたら、と思いながらこの新しいスポーツの普及に情熱を注いだ。

平和がもどり一九五二年のヘルシンキ・オリンピックでは開会式後のデモンストレーションとして地元フィンランドとスウェーデンが対戦した。一九三六年以来久々に聖火の下でハンドボールが行われたのである。この試合の前にザールブリュッケンで開かれた第4回国際ハンドボール連盟(IHF)通常総会に日本から初めて外山准二氏(当時日本協会理事長、現東京協会副会長)が出席しその帰途ヘルシンキでフィンランド対スウェーデン戦を見学、そのまま日本オリンピック選手団に合流した。「日本体育協会50年史」によると外山氏は代表団帰国後代表団のメンバーに加えられることになった——とあり、ハンドボール人で日本のオリンピック選手団に加ったのは外山氏が第1号ということになる。

オリンピックとハンドボールの関係を探るうちで、まことに〝不運〟なのはその時点で開催地にハンドボールの種まきが行われていなかったことである。

ロンドン(一九四八)、メルボルン(一九五六)、ローマ(一九六〇)メキシコシティ(一九六八)——メルボルン(オーストラリア)を除いてはすべてその後に各国ハンドボール協会が発足している。第2次世界大戦後のオリンピックでハンドボール実施の可能性はヘルシンキと東京(一九六四)だけだったのである。

再び東京での実施へ

一九四〇年の東京大会を返上して以来、東京にオリンピックを迎えることは日本の〝宿願〟といえた。

2度目の招致への機運は以前にもまして燃えあがり一九六〇年の第17回大会は投票の結果ローマにゆずったものの昭和33年5月再び名乗りをあげ34年6月26日ミュンヘンでのIOC総会で第8回大会(一九六四年)開催地として決定をみた。

日本ハンドボール界もすでに21年の球史を刻み、20年前の〝実績〟もあって実施への働きかけを強く推進させた。各国ハンドボール関係者も積極的にバックアップしてくれていた。

「実施」(11人制)はよい方向へ進んだ。JOCはオリンピック憲章で定められた全22競技を行うことを目標に準備を進めたのである。現理事長荒川清美氏が東京オリンピック選手強化対策部委員に加ったりもした。

そのムードにカゲがさしはじめたのは34年のなかばすぎからである。IOCのオリンピック規模縮少が取り沙汰されるようになり、35年12月22日東京オリンピック組織委員会は「18競技にしぼる」と決めてハンドボールなど4競技の除外を明らかにした。(本誌第5号参照)

ハンドボール関係者の受けたショックは筆舌につくしがたく、がっくりと肩を落とした当時の日本協会役員の淋しげな姿を昨日のことのように思い出す。

IOC委員の投票で〝除外〟

しかし、この日本の決定は国際的にも反響を呼び、36年6月アテネで開かれたIOC総会でもがぜん論議のタネとなった。総会もなかなか結論を得られずについに〝18競技案(=日本案)〟は取り下げられる形となり、出席した44人のIOC委員が東京大会で実施しなくてもよいと思う競技にマークをつける投票が行われ、ハンドボールには28票(65%)のバッドマークが集ってしまいアーチェリーとともに除外が正式に決まったのである。(注・数字は体協時報104号による)

ここで日本ハンドボール関係者が疑問に感じたのは、もし組織委が18競技縮少案などと「自己規制」せず、当初の計画どおり22競技案を押せばパスしたのではないか、ということである。

組織委の顔を立て18競技案を泣く泣く了承、国際的な復活運動や工作を行わぬまま迎えたアテネ総会であってみれば、28人の不支持もしかたのないことであった。

しかしIOC総会の結果、18競技案が通らず20競技の実施を了解したのは釈然としないものでありIHFは36年7月の広報で遺憾の意を表明、日本協会も7月12日夜組織委やIOC総会に公開質問状を提出して詰めよる騒ぎとなった(本誌7号参照)

日本のハンドボール界がオリンピックへ燃やす執念は、生いたちのいきさつはともかく、二度までもホスト国の機会を失った無念さに起因しているのであり〝ミュンヘン出場〟は、そのうっぷんの爆発ともいえるであろう。

晴れのオリンピック代表が決まった今、戦前、戦後の東京大会でハンドボールを実施させるべく心身をけずられた多くの先輩たちの苦労を改めてねぎらいたいと思う

(完)

〔筆者註〕戦前の東京大会に関する項は「大日本体育協会史(補遺)上」(昭21・5・5発行、大日本体育会編)を参考にしました。御意見をお聞かせ下さい。

五輪選手の国内試合規制

日本協会は6月11日の全国理事会でオリンピック代表に選ばれた12選手の国内試合出場を6月26日以降、帰国(9月15日の予定)まで規制することを決め発表した。なお、佐々木(中大)を除く11選手は鹿児島国体には予選に出場していなくても参加できる。

実業団選抜、貫録の初優勝（男子）

〜ＮＨＫ杯全日本選抜大会〜

女子は大洋デパートに栄冠

ＮＨＫ杯をかけた第19回全日本選抜大会は6月23日から25日までの3日間、久々に大阪・市中央体育館で行われ、男女とも各加盟団体から推せんされたビッグ・フォアが激戦を展開した。

男子は11人のオリンピック代表選手が各チームに分散して登場、ファンの注目をあびたが、このうち5人をかかえる全日本実業団選抜がさすがに手堅い攻守を示して3戦全勝、初優勝を飾った。

女子は単独チームのせりあいとなり、常勝・大洋デパート（熊本）とチャンピオンチーム・日本ビクター（茨城）が最終戦で対決、大洋がチャンスを確実に活かしてビクターを振り切り2年ぶり4回目の優勝を飾った。これで大洋デパートの全国大会連続優勝記録は「14」に伸びた。（観衆第1日＝千、第2日＝二千、第3日＝二千八百）

男子

教職員選抜の健闘目立つ

大崎電気（大崎実連・埼玉）14（4－7、10－5）12 全日本教職員選抜

得	【大崎】		【教職員選抜】	得
0	下里	GK	木田（大阪イーグルス）	0
0	岩下	GK	大村（山梨教員ク）	0
3	飯田	FP	氷海（千葉教員ク）	1
4	近森	FP	斉藤（群馬教員ク）	3
0	籏野	FP	福井（大阪イーグルス）	1
2	東	FP	安達（大阪イーグルス）	1
0	谷口	FP	樫塚（大阪イーグルス）	3
2	荒井	FP	串野（和歌山教員）	0
2	佐藤	FP	平山（鹿児島教員）	0
1	林	FP	高橋（大阪イーグルス）	3
0	沢田	FP	池本（大阪イーグルス）	0
0	坂口	FP	市田（大阪イーグルス）	0
14	（3）	7MT	（1）	12

（審・佐野、岡前）

○……氷海（オリンピック代表）を中心に斉藤（全日本）樫塚などで教職員が得点をあげれば大崎も飯田（オリンピック代表）を中心に近森（オリンピック代表）東（全日本）らが得点を加える。選抜でなければ見ることの出来ないチーム構成、好プレーは男子の緒戦を飾るにふさわしかった。前、後半にわけて得点をみると点差を感じるが、ゲームスコアでは14対12なのである。特に後半20分下里（オリンピック代表）の好判断から11対10と、このゲーム始めて大崎がリードをうばってからは、一層ゲームが盛り上がり、選手自身も観衆も充分に満足したことだろう。

なお、左ヒザを痛めていた近森が国内の公式試合に本格的に出場したのはおよそ6ケ月ぶりのこと。完治したようである。

全日本実業団選抜 25（16－5、9－10）15 中央大（学連・東京）

得	【中大】		【実業団選抜】	得
1	山田	GK	今井（湧永薬品）	0
0	吉近	GK	柳川（大同製鋼）	0
2	佐々木	FP	木野（湧永薬品）	3
1	花輪	FP	野田（大同製鋼）	3
3	白石	FP	早川（湧永薬品）	3
2	田中	FP	藤中（大同製鋼）	7
0	会田	FP	新実（本田技研）	3
3	山村	FP	大江（三菱レ大竹）	0
2	村田	FP	森（湧永薬品）	3
1	今関	FP	加藤（大同製鋼）	1
0	松本	FP	市原（湧永薬品）	0
0	上村	FP	中井（大同製鋼）	2
15	（1）	7MT	（4）	25

（審・狩野、岡本）

○……佐々木（オリンピック代表）花輪（全日本）を中心とした中央は春の関東リーグの覇者。ややく油の乗って来た上り坂の好チーム。オリンピック代表選手の五人を擁した実業団選抜をどこまで苦しめるか大いに期待がもたれたがゲーム開始早々にしてむなしくくずれ去った。実業団選抜の積極的なディフェンスに中央大何時もの様にセットでボールが廻らず、組織プレーが組み立てられない。ディフェンス面でも、相手の小ぎみよいパスワークでゴール前を再三破られてしまった。

○……後半に入って、両チーム共攻撃重点のキメの荒いゲーム展開になり、オリンピックプレヤーの卓趣した個人技が矢たらと光る。後半の実業団選抜のゴールの過半数は速攻からの得点で中央大の帰陣のおくれが目についた。半ば過ぎから実業団選抜はメンバーをがらりと入れ替え終盤は本来のリズムに乗りきれずゲーム終了。若さ闘志そして体ごとぶつかっていく気迫が中央大に感じられなかったのは残念だった。（勝　繁夫）

全日本教職員選抜 15（9－4、6－8）12 中央大

得	【教職】		【中央】	得
0	広川	GK	山田	0
0	本田	GK	吉近	0
1	平山	FP	佐々木	3
4	高橋	FP	田中	2
2	河原崎	FP	白石	1
2	氷海	FP	花輪	3
1	斉藤	FP	山村	2
2	樫塚	FP	村田	1
1	安達	FP	上村	0
0	串野	FP	佐野	0
1	市田	FP	今関	0
1	足羽	FP	松本	0
15	（4）	7MT	（0）	12

（審・上田、辻）

（注）教職員選抜の所属・広川、河原崎、足羽（いずれも大阪イーグルス）

○……中大の先取点で始まったが8分までは一進一退。教員は13分7mスローを成功させてから速攻にさえをみせ連続5点をあげた中大は教員の防禦をやぶることに苦労して、ロングシュートを打つことしかできずに前半終了してしまった。

○……後半は中大が前半の薄い攻撃に比べて厚みのある体形で佐々木、花輪のロング・ポストと多彩な攻めを示し教員をおびやかし、15分過ぎには一点の差までに追い上げて勝敗の行くえは判らなくなった。残り時間1分にして教員は速攻、7mと得点して3点の差で終った。教員は氷海の好リードが勝利への道へとつながった。中大の若さを教員の老巧さが制したともいえる一戦。

勝敗表

（男子）	実	大	教	中	P	得	失
①実業団	…	○	○	○	6	62	36
②大崎電	●	…	○	○	4	39	43
③教職員	●	●	…	○	2	39	41
④中　大	●	●	●	…	0	36	56

（女子）	大	ビ	日	田	P	得	失
①大洋デ	…	○	○	○	6	33	21
②日本ビ	●	…	○	○	4	32	28
③日体大	●	●	…	○	2	21	29
④田村紡	●	●	●	…	0	23	31

Pはポイント（勝ち点）

全日本実業団選抜 22（8−3 14−6）9 大崎電気

得	【実連】		【大崎】	得
0	柳川	GK	下里	0
0	今井	GK	岩下	0
4	木野	FP	近森	5
2	野田	FP	旗野	0
2	早川	FP	荒井	1
1	高橋	FP	東	0
3	藤中	FP	谷口	0
6	中井	FP	飯田	2
1	新実	FP	沢田	0
0	戸田	FP	佐藤	0
0	大江	FP	林	0
3	松原	FP	坂口	1
22	（2）	7MT	（2）	9

（審・岡前 佐野）

（注）実業団選抜の所属・戸田（湧永薬品）、松原（大同製鋼）

○……どちらも主力はオリンピック代表。何度も同じ釜の飯を食べあった仲だしそれぞれのプレーを知りつくしているだけにナショナルチームの紅白試合を見るような感じだった。

しかし、大崎が全日本チャンピオンの名と、単独チームの有利さを活かして立ちあがり互角に滑り出し中盤頃からは両チーム共堅いデフェンスで、加点する事が出来ずお互にチャンスらしきものが出て来ぬまませりあった。しかし地力に優る実業団選抜は前半終了近くになって藤中（全日本）中井（オリンピック代表）がよく頑張り5点差をつけた。

○……後半に入り大崎の荒井（全日本）がゲット、再度もつれるかにみえたが実業団はすかさず藤中が返し更に中井、松原と着々加点、一方大崎はシュートを打つも堅いデフェンスにカットされ、実業団の速攻のエサになってしまった。時折、近森、飯田が加点するも焼石に水であった。（丸岡一清）

大崎電気 16（10−4 6−5）9 中央大

得	【大崎】		【中央】	得
0	岩下	GK	山田	0
		GK	吉近	0
2	近森	FP	佐々木	3
4	飯田	FP	花輪	3
1	旗野	FP	白石	2
4	東	FP	田中	0
0	谷口	FP	山村	0
1	荒井	FP	村田	0
4	坂口	FP	今関	0
0	林	FP	松本	0
0	佐藤	FP	上村	1
		FP	佐野	0
16	（0）	7MT	（0）	9

（審・狩野 岡本）

○……大崎のボールで開始。東（全日本）の中央や、左からの得意のアンダーシュートを決めその後、飯田、近森が長身を利してゴール前のジャンプシュートを決め大崎がゲームの主権を握った。中央大は、佐々木が健闘して反撃したが、雑なシュートパスミスが目立ち、大崎の速攻を許していた。前半終了7分前から大崎は4点を加え、前半10−4と大差をつけた。

○……後半も相変らず、中大のシュートミスから大崎のトップ坂口がよく決め連続3ポイントをあげた。中大も花輪、白石がよく攻めたが、前半同様、ミスシュートや無駄なシュートが多く大崎に反撃を許していた。大崎も後半20分すぎ、飯田、近森をひっこめ、若手にきりかえてからは全く良いところがなく、ミスプレーを連発したのはいただけない。中大は前後半あわせて四本の7mスローをすべて失敗し、大崎も一本の7mスローを落とし、7mスローが一本も入らぬほど雑なプレーが多かった。大崎はGK岩下がフル出場、最後までよく頑張ったのが目立った。（佐野和夫）

全日本実業団選抜 15（7−9 8−3）12 全日本教職員選抜

得	【実連】		【教職】	得
0	今井	GK	大村	0
0	柳川	GK	本田	0
1	木野	FP	氷海	0
2	野田	FP	斉藤	1
1	早川	FP	樫塚	1
1	高橋	FP	市田	1
3	藤中	FP	安達	2
5	中井	FP	平山	1
1	新実	FP	高橋	3
1	大江	FP	池本	1
		FP	串野	2
		FP	河原崎	0
15	（3）	7MT	（3）	12

（審・勝 丸岡）

○……前半10分まで実業団がリードをしていたが教員は串野のフェントモーションのシュートで同点にしてから優勢となり9対7と2点リードで前半を終った。

○……後半は実業団が野田（オリンピック代表）−藤中（全日本）という大同コンビであざやかなシュートを見せれば教員は高橋−串野の元・日体コンビでお返しを見せる等、昨日までは見ることが出来なかった教員の闘志が強く感じられ好ゲームとなった。後半開始直後、斉藤がロングをきめ3点差とした時は実業団も一瞬ヒヤッとした事と思うが、野田、藤中のコンビ、中井（オリンピック代表）の豪快なシュート、新実（オリンピック代表）の左腕ならではのシュート等でやっと同点とし、16分に大江（全日本）がシュートをき

めて逆転した。

○……大会の最後をかざるに、ふさわしい好ゲームを展開し、その最大の原動力となった教職員選抜の闘志は誠にすばらしく、賞讃を送りたい。（辻　一義）

日体大、田村紡破り3位　2位はビクター

女子

日本ビクター（実連・茨城）11（4—6 / 7—4）10 田村紡（実連・三重）

	【日ビ】	得	【田村】	得
GK	渡辺	0	久保	0
GK	鈴木	0		
FP	蓮見姉	4	沖	0
FP	八重樫	0	三毛	1
FP	阿部	0	広森	4
FP	蓮見妹	1	金田	0
FP	大塚	0	辻	3
FP	滝	0	久保田	2
FP	山口	4	坂本	0
FP	谷沢	2	笠	0
FP	富山	0	東	0
FP	高野	0	若林	0

（審・丸岡　勝）

10（4）7MT（1）11

○……試合開始5分頃迄は両者共にロングシュートがきまらず粗雑なプレーが目立ったが、田村は6分すぎに7米スローによる得点につづいて右サイドからのフォーメイションプレーに成功し其の後ゆとりをもった攻撃を展開した。一方ビクターは縦の切り込みがないためつまったシュートが多く田村は辻の出足とポストプレーによる活躍で前半をリードした。後半ビクターは蓮見姉のフリースローによる加点と山口の速攻により13分には同点に追いつき一気に逆転した。田村は気のゆるみか、動きが止まりビクターは前半とちがった早い動きで試合の主導権をにぎり逆転後は巧みに試合を運んだ。（岡本克彰）

大洋デパート（実連・熊本）10（5—2 / 5—4）6 日体大（学連・東京）

	【大洋】	得	【日体】	得
GK	小原	0	大工原	0
GK	桑畑	0	鈴木	0
FP	垂水	4	嶋田	3
FP	米	3	赤塚	0
FP	村中	0	小貫	0
FP	釼	0	木村	1
FP	島田	0	松本	0
FP	蔵田	3	岩本	2
FP	加子崎	0	小林	0
FP	植原	0	坂本	0
FP	山下	0	鈴井	0
FP	篠田	0	坂上	0

（審・辻　上田）

6（1）7MT（1）10

○……久々にベストメンバーを組んで登場した女王・大洋デパートの試合ぶりに注目が集った。

日体大のスローオフボールを、大洋デパートはすぐカットして速攻、しかし日体大GKに阻止されその後両チーム共にミスが多くポイントできなかった。スピード、個人技にややまさる大洋が、やっと8分すぎから米・垂水のベテランの活躍で連続三ポイントをあげた。日体大も反撃し木村が決め、22分には大洋の反則から逆襲速攻し嶋田がゲット、2—3と反撃した。大洋もすぐ23分にセットからのカットイン、ノータイムにはフリースローのパスから蔵田が連取して5—2で前半終了。

○……後半に入り日体大は全員がよく動きはじめ5分には嶋田が左サイドぎりぎりからうまいシュートを決めて調子をあげ11分にも7mスローの失敗からのリバウンド拾って決め、追いあげた。大洋はスピードはあるが横の動きが多くポイントにならず、12分に、垂水がミドルを決めた、がその後両チーム共ミスが多く、20分近くなって、やや本来の激しい動きからのポイント争いとなってスタンドを沸かせたが、総合力、個人技にまさる大洋が順当に押し切った。

敗れた日体大では嶋田の健闘が光り、大洋が本調子でないこともあって盛りあがりのない凡戦であった。（佐野）

大洋デパート 11（9—2 / 2—3）5 田村紡

	【大洋】	得	【田村】	得
GK	小原	0	久保	0
GK	桑畑	0		
FP	垂水	4	沖	0
FP	米	1	三毛	0
FP	村中	1	広森	4
FP	釼	0	金田	0
FP	島田	2	辻	1
FP	蔵田	3	久保田	0
FP	加子崎	0	坂本	0
FP	植原	0	笠	0
FP	篠田	0	東	0
FP	山下	0	若林	0

（審・岡本　狩野）

5（1）7MT（4）11

○……田村は広森、大洋は垂水がともに7mスローを決めあったただけでお互に全力をつくしながら決定的なチャンスをつかめず息を抜くことができない。こういうゲームほど選手にとって「きつい」ものはない。わずかに田村紡が前半終了まぎわ広森のシュートで1点をリード後半をむかえた。

○……後半2分大洋は垂水の7mスローで同点とし7分蔵田のフリースローでこのゲーム始めてリード、再に垂水の7mスロー、蔵田米のポストプレー等でようやくペースをつかみ、終了直前には7mスローを決めて11対5と最後は大きく差をつけた。田村の広森を中心とした攻防は大洋に対する「執念」とでもいうのだろうか、闘志にあふれ最後まで果敢なプレーを示したのは好感がもてた。

日本ビクター 11（4—3 / 7—3）6 日体大

	【日ビ】	得	【日体】	得
GK	鈴木	0	大工原	0
GK	渡辺	0	鈴木	0
FP	八重樫	1	赤塚	1
FP	山口	1	小貫	0
FP	蓮見姉	7	木村	3
FP	蓮見妹	1	岩本	1
FP	阿部	0	小林	0
FP	大塚	0	坂本	0
FP	滝	0	鈴井	0
FP	谷沢	1	坂上	0
FP	富山	0	藤山	0
FP	高野	0	嶋田	1

（審・丸岡　勝）

6（0）7MT（3）11

○……ビクターはスローオフ直後蓮見のロングシュートが見事に決まり好スタートを切った。

一方、日体大も木村のミドルシュートですぐ同点。しかしそれから10分過ぎまで両チーム共ミスをくりかえし得点をあげるに至らなかった。ビクターは7Mスローと蓮見のフリースローで加点、日体大はサイド攻撃を成功させせり合

いになった。

○……後半になって日体大は蓮見をマークしたがそれがうら目となってオフェンスのペースを乱しパスが単調に流れビクターのインターセプトにあって連続失点、ビクターをすっかり調子づかせてしまった。日体大の敗因はシュート力に乏しくゴールエリアまで突込まなければシュートが出来なかった点にあると思われる。

日体大 9（5−3, 4−5）8 田村紡

得	【田村】		【日体】	得点
0	久保	GK	大工原	0
0	沖	FP	嶋田	1
1	三毛	FP	赤塚	3
3	広森	FP	小貫	1
0	金田	FP	木村	4
4	辻	FP	岩本	0
0	久保田	FP	小林	0
0	坂本	FP	坂本	0
0	笠	FP	鈴井	0
0	東	FP	坂上	0
0	若林	FP	松本	0
8	（2）	7MT	（3）	9

（審・佐野、岡前）

○……両者共に早い動きの攻防で試合を展開したが日体大は多彩な攻撃とフォーメイションプレーが成功して前半をリードした。一方田村はエリヤ前の動きがつまりパスミスが多かった。

後半も田村はせっかくのチャンスをシュートミスで逃し、勢いにのる日体大は木村の好リードで全員がよく走り、最後まで主導権をはなさなかった。

○……学生チームが全国大会で実業団を破ったのは43年8月の第20回全日本総合（長崎の予選リーグ）で日体大がプラザー工業（愛知）を10−9で破って以来のことであり、これを刺戟に女子学生界のいっそうの発奮を望んでおきたい。

大洋デパート 12（6−3, 6−7）10 日本ビクター

得	【日ビ】		【大洋】	得
0	渡辺	GK	小原	0
0	鈴木	GK	桑畑	0
1	蓮見姉	FP	垂水	4
2	八重樫	FP	米	1
0	阿部	FP	村中	0
0	蓮見妹	FP	釼	0
2	大塚	FP	島田	2
0	滝	FP	蔵田	3
4	谷沢	FP	加子崎	0
1	富山	FP	植原	1
0	高野	FP	篠田	1
0	山口	FP	山下	0
10	（0）	7MT	（1）	12

（審・辻、上田）

○……大洋デパートは日本ビクターの蓮見を徹底マンツーマンの変形ディフェンスの布陣で終始試合を進めた。しかしビクターは開始早々五対五攻防の虚をうまくついて、中央のフリースローから蓮見のアシストパスで先取点をあげ、20分まで常に先行したが、大洋は19分以後4点を連取、6−3で前半を終えた。

○……大洋は3人の世界選手権のメンバーが抜けて初めての公式試合のせいか、もうひとつまとまりが欠けパスミス、シュートミスが目についた。しかしリードしてからのプレーはさすがに巧かった。セットオフェンスでの素晴しいフォーメーションプレー又サイドからそしてロングシュートと、多彩な個人プレー、チームプレーを披ろうした。日本ビクターも最後までねばって2点差まで追いあげ、試合を盛りあげて呉れた。（勝）

大洋デパート、快記録更新

優勝した大洋デパートはこれで43年8月の第20回全日本総合選手権（長崎市）以来、14の全国大会（全日本総合3、国体4、全日本実業団4、NHK杯全日本選抜3）に連続優勝という快記録をたてた。14大会の通算成績は55戦53勝2敗（2敗は44年12月第16回NHK杯の対大崎電気、45年2月第10回全日本実業団の対田村紡）と驚異的なもの。なお、45年3月以来公式戦42連勝（このうち全国大会での勝利は27）である。

全国中学生大会へ 東港、豊橋南部（愛知代表）名乗り

多くの注目を浴びている第1回全国中学生大会（8月18、19日愛知県青少年センター）の各県選考大会（予選）は5月から6月末にかけて各地で盛んに行われておりいよいよ本大会へ進むブロック大会の段階が迫って来ているが、開催県の愛知県では6月11日名古屋のプラザー工業体育館で県内5地区からの代表校によって選考大会を開き男子は東港中、女子は豊橋南部中の推せんを決定、記念すべき第1回大会へ出場の初名乗りをあげた。

◆愛知県中学校大会記録

▽男子1回戦（1試合）

一宮北部 11（延）9 美川

▽同準決勝

三谷 15−4 横須賀

東港 10−5 一宮北部

▽同決勝

東港 10（4−6, 6−3）9 三谷

▽女子1回戦

豊橋南部 7−5 上野

▽同準決勝

明豊 11−3 高岡

豊橋南部 不戦勝 一宮南部

▽同決勝

豊橋南部 9（3−5, 6−2）7 明豊

台湾女子教員来日か 愛知クラブ連盟は このほど、8月上旬から約3週間、台湾の女子教員チームの来日計画を進めていることを明きらかにした。詳細未定。

慶熙大、福岡選抜・東海選抜を降す

～第6回日韓学生交流～

京都産大は分ける　関東学生、1勝で面目保つ

韓国学生界のナンバー・ワン、名門慶熙大学（ソウル）の朱誠完団長ら一行12名を迎えた第6回日韓学生親善試合は6月10日福岡で開幕、4都市で4試合を行った。

慶熙大は昨秋のオリンピックアジア予選韓国代表4選手を攻守の軸に技巧的なチームカラーを示し、各試合とも日本側はたくみに相手のペースへ誘いこまれ苦戦、関東学生選抜が最終戦で一矢を報いたにとどまり、慶熙大は2勝1敗1分の成績をみやげに帰国した。

6回の通算は日本側の32戦21勝8敗3分（うち7人制は26戦15勝8敗3分）となった。なお、当初同時開催が予定された女子の第2回交流は本年度は中止と決まった。

第1戦・福岡学生選抜との試合は6月10日午後5時30分から福岡市公園の市民体育館で行われた。審判＝近藤正行、日野博

慶熙 17（9－4／8－8）12 福岡学生選抜

得	【福岡学生選抜】		【慶熙】	得
0	小畠（九州産大）	GK	李錦求	0
0	桜木（福岡大）	GK		
1	林田（西南学院）	FP	張正穆	0
0	池田（福岡教大）	FP	黄致範	4
2	森山（福岡教大）	FP	金允洙	1
2	久保（九州産大）	FP	金栄会	5
4	井上（九州産大）	FP	金性洙	5
0	中馬（九州産大）	FP	柳在忠	2
1	上田（福岡大）	FP	韓在愚	0
1	牧（西南学院）	FP	呉徳煥	0
1	岸田（福岡工大）	FP		
0	川村（九州大）	FP		
0	谷口（東海）	FP		
12	（1）	7MT	（1）	17

▽その他の出場者【福】▽FP荒井、木原（ともに福岡大）＝得0

○……韓国学生選抜チームは出国手続等の関係から試合開始直前、大会々場に到着という非常に不利な条件で臨みながら、終始元気一杯気力溢れる試合を展開し、我々に清々しい印象を残してくれた。

試合は福岡県学生選抜チームが始めての国際試合ということで、選手が非常に堅くなり、チームプレーにコンビネーションを欠き、開始早々3点を連取されるという不安なスタートを切った。韓国選抜チームの堅いデフェンスは凡ミスの連出から速攻に結びつけられ併せてデフェンスの甘さから易々と得点を許した。前半の中盤より福岡県学生選抜チームは徐々に落着き、スカイプレー等により得点の機会を持った。後半に入りやや疲れのみえた韓国学生選抜チームに対し、県選抜チームは雰囲気に馴れ、伸び伸びとプレーし、後半10分一担2点差まで追ったが、力及ばず敗れた。県選抜チームはゴール前でボールを保持してからの動きが鈍く、ボール保持と同時に一歩踏み出し戦局を展開していた韓国選抜チームとの間に大きな差を見た。

福岡県学生選抜チームが国際試合が出来るまでに充実成長したことは、地方大学の充実発展よりみて非常に喜こばしいことである。

（市川孝夫）

京産大、逃げ切れず

第2戦・京都産業大（関西学生4位）との試合は12日午後6時から京都市体育館で行われた。審判＝門前和、藤本昇（観衆約二千）

京都産大 7（1－2／6－5）7 慶熙　引き分け

得	【京産】		【慶熙】	得
0	奥谷	GK	李錦求	0
2	垣内	FP	張王穆	0
0	土井	FP	黄致範	4
0	田中	FP	金允洙	1
0	針生	FP	金栄会	0
2	戸田	FP	金性洙	0
1	福井	FP	柳在忠	2
2	大原	FP	韓在愚	0
0	西沢	FP	呉徳煥	0
0	岡本	FP		
7	（1）	7MT	（3）	7

○……前半はまったくの貧打戦だった。両チームが得点機をのぞかせはじめたのは20分すぎから。

25分慶熙は黄がそれまでの重苦しい空気を突き破るように鋭いロングシュートを決めて先行、さらに27分の7MTも黄が得点2－0とした。京産大もかたくるしさがとれ29分戸田がゲットして勝負を後半へ持ちこんだ。

○……後半はまず慶熙が3分柳のシュートで滑り出したが、京産大も6分、7分（7MT）垣内が巧技をみせて3－3と追いつき、そ

……年次成績……

▽第1回（昭36）日体大遠征
　日体大・6戦全勝（11人制）
▽第2回（昭38）韓国学生選抜来日
　韓国学生・1勝4敗1分
▽第3回（昭44）日体大遠征
　日体大・4勝2敗
▽第4回（昭45）成均館大来日
　成均館大・3勝2敗
▽第5回（昭46）全日本学生遠征
　全日本学生・4勝1分
▽第6回（昭47）慶熙大来日
　慶熙大・2勝1敗1分

のあとは1点をめぐる争いに変わった。

15分4－4のあとは京産大がペースを握り15分10秒戸田、16分大原の矢次早にゴールをあげて6－4とはなし、20分いったん1点差に追われたが22分大原が再び決め2点差をキープ、23分慶熙は7MT（黄）で6－7としたものの、京産大ディフェンスの立ちなおりぶりからみて、そのまま終るかにみえた。しかし慶熙は最後まで粘りつき、タイムアップ58秒前、強引な突進から7MTを誘い金栄会が着実に得点、辛くも引き分けにもちこんだ。

東海、後半にくずれる

第3戦・東海学生選抜との試合は15日午後6時から名古屋市の愛知県体育館で行われた。審判＝稲石三二、奥村方志。

慶熙 11（8－2、3－5）7 東海学生選抜

【慶熙】	得
GK 李錦求	0
GK 黄亨求	0
FP 黄致範	3
FP 金允珠	2
FP 張正穆	0
FP 金栄会	1
FP 金性洙	1
FP 柳在忠	4
FP 韓在愚	0
FP 呉徳煥	0
計（7MT）	11（6）

【東海学生選抜】	得
GK 福井（中京）	0
GK 沢田（南山）	0
FP 飼沼（名城）	4
FP 福田（名城）	1
FP 夏目（中京）	1
FP 成田（中京）	1
FP 小川（中京）	0
FP 堀田（愛教大）	0
FP 佐藤（名城）	0
FP 田中（名城）	0
FP 鈴木（名大）	0
FP 梶村（中京）	0
計（7MT）	7（1）

○……慶熙は前半遠征の疲れのためか動きが鈍く、飼沼(名城)、夏目（中京）のフェイントプレーにまどわされ22分には5－1と点差があき、東海選抜の一方的な試合になるかと思われた。しかし、慶熙は24分(7MT)、29分30秒柳在忠の好技でもちなおした。

○……後半、東海は4分福田のゲットで6－3で優位を保ちつづけたが、10分過ぎから慶熙は金允珠を中心としたコンビネーションプレーと黄致範、柳在忠などの個人技をミックスさせて15分までにたてつづけに4ゴールをあげ7－6と逆転に成功した。

東海選抜はこの反撃に攻守ともすっかり浮足立ち、ゴール前で荒いプレーをみせて20分、21分連続7MTを課せられ9－6と傷口を拡げ、24分1点を返したものの、終盤再び2本の7MTで加点されて敗れた。

○……東海選抜は、春の優勝校・中京大と2位・名城大の主力メンバーで編成したチームであったが後半に入って混成チームの最大弱点とも考えられるコンビネーションの僅かなズレを慶熙のまとまりにつかれたのが敗因である。

前半、GK福井（中京）を中心としてコンビネーションのとれた好ディフェンスをみせていただけに後半だいじなところでその組織が乱れてしまったのは惜しまれ、残念で仕方がない。（藤松　博・東海学連理事長）

関東学生、前半の優位守る

第4戦(最終戦)・関東学生選抜との試合は17日午後6時3分から東京体育館で「第3回西敏郎（学連会長）杯争奪戦」として行われた。審判＝安藤純光、斉藤和夫。

関東学生選抜 15（8－5、7－8）13 慶熙

（観衆千八百）

○……一言にしていえば、盛りあがりにかける試合であった。

関東学生はスタートから、速攻を中心にしたプレーで着々加点。一方慶熙大も黄致範を中心にしたプレーで良く加点し、点数の上では、接戦の形で試合は進んだ。

【関東学生】	得
GK 佐藤寿（法政）	0
GK 吉近（中央）	1
FP 佐々木（中央）	4
FP 花輪（中央）	3
FP 白石（中央）	2
FP 田上（法政）	2
FP 長谷川（法政）	2
FP 脇若（早稲田）	0
FP 喜井（日体）	0
FP 菊池（早稲田）	0
FP 横島（東教大）	1
FP 加藤（早稲田）	0
FP 佐藤守（明治）	0
計（7MT）	15（0）

【慶熙】	得
GK 李錦求	0
FP 張正穆	0
FP 黄致範	7
FP 金允珠	1
FP 金栄会	2
FP 金性洙	1
FP 柳在忠	2
FP 韓在愚	0
FP 呉徳煥	0
計（7MT）	13（2）

○……前半なかばすぎから、関東学生は速攻に加え、ポストプレーが良く決り出し、点差を開いていった。しかし、両チームともにミスが見られ、また不必要とも思われる守備の乱れがあり、そこにいかにつけこむかによって、得点があがるという形をとって、後半半ばまでが過ぎた。この間、慶熙の攻防両面にわたるミスを巧みについた関東選抜のペースで試合は終始した。しかし、関東選抜もミドルロングはうっても、絶対の決め手にはならず、もっぱら、速攻とポストプレーによって加点をしていた。特に佐々木を中心にした個人技による得点が眼についた。

○……後半なかばを過ぎるころから関東学生の選手交替の間隔をぬって、慶熙大は攻撃の手をかけ、追いこみはじめたが、試合の大勢をかえるまでには至らなかった。

○……ここ数年来の日韓学生交流にみられたはりつめたような熱気

韓国・慶熙大来日メンバー

▽団長　朱　誠完(43)　慶熙大教授
▽監督　朴　喆斌(37)　同
▽選手（○印はアジア予選代表）

	氏名	身長	体重
GK	○李　錦求(19)	178cm	78hg
	黄　亨求(21)	175	68
FP	○黄　致範(23)	180	73
	○柳　在忠(24)	178	72
	張　正穆(20)	174	69
	金　允珠(19)	163	59
	○金　栄会(20)	175	69
	韓　在愚(20)	173	62
	金　性洙(18)	178	68
	呉　徳煥(19)	174	65

がこの試合全く見られなかったのは残念であった。ただ一つの救いは後にも触れる関東のGK吉近のキーパーボールからの得点という快挙であろう。いわばマンネリ化したようなこの大会をグッとしめてくれた。

○……ここのところ日韓交流というとかく笛で問題がおきていたこの試合、アドバンテージをあまり見ずに早め早めの笛でラフ・プレーを未然に防ぎ、またそのような傾向のあるプレーに対しては、警告を明確にとっていたレフェリーの処置はきわめて適切なものであった。　（藤本　強）

吉近（GK）、絶妙の長距離得点

□……最終戦の後半15分、関東学生のGK吉近（中央）が39mに及ぶ超ロングシュートを成功させ場内を湧かせた。慶熙大・金選手のシュートをおさえそのまま相手ゴールを目がけた一投が、前進していた相手GK李の頭上をこえてみごとに決まったものだ。国内における国際試合では初。

〃〃〃〃黄致範選手訪問〃〃〃〃

昨秋のオリンピックアジア予選の韓国代表として活躍した左腕・黄致範主将のプレーはやはり光っていた。

１m80、73Kの体軀。パスよしシュートよし、4試合で18ゴールをあげた。帰国直前の羽田空港でいろいろ聞いてみた。

――今回の成績は

黄主将　全勝するつもりで来たから不満だ。京都産大の試合は前半の審判の判定に疑問がある。最終戦もあと一日休めれば勝てない相手ではなかった。

――日本チームをどう思うか。

黄　関東学生はもっと強いと思った。去年韓国に来たチーム（注全日本学生）と比べてみても日本の学生界はスケールが小さくなったのではないだろうか。

――参考になったプレーは。

黄　関東学生のポストからサイドへのパスプレーや、佐々木（中央）のハンドリングは見習うべきものがあった。

――今回の遠征で印象に残ることは

黄　各地で多くの在日韓国人に応援していただいたこと、日本にいる友達に会えたこと、日本の選手と試合後のレセプションで仲よくなれたことも大変嬉しい。また京都へ全日本の木野主将が激励に来てくれたのも忘れられない。

――韓国のナショナルチームはその後どうしているか。

黄　時々集って合同練習をつづけている。

――韓国学生界の近況は。

黄　慶熙、成均館、円光、朝鮮大の4校が強い。学生リーグには二千近いファンが集る。日本に来るにあたって4月と5月各1回セレクションマッチを行い2度とも我々が勝った。日本でいちばん強いという関東学生の実力から推して両国の学生選抜が顔を合わせれば韓国のほうが上だと思う。

――君はいつからハンドボールを始めたのか。今後は。

黄　高校（麻浦高）時代からだ。卒業後は今年から発足した陸軍のチームへ入るつもりだ。今は学生のほうが強いが将来は陸軍も強くなるだろう。

◇

このあとは黄選手が聞き手にまわったようなものだった。

「野田は健在か。有永、本田、氷海はどうしている？。斎藤はミュンヘンに行かないそうですネ。佐々木は日本のニュー・スターといってよいのでしょう？。

日本はオリンピックで何位を目標にしているのですか」……。

韓国の主力選手にとって日本ハンドボール界の動向は関心の的のようである。アジア予選の副産物ともいえるだろう。　（杉）

大洋デパートの5連勝有望

〜室蘭で全日本実業団女子〜

注目される白花醸造（韓国）

第13回全日本実業団女子選手権は7月12日から16日まで北海道・室蘭市体育館に全国最上位の強豪8チームと韓国ナンバーワン・白花醸造（ソウル）が昨年につづき特別参加して行われる。優勝の行方を占ってみよう。（杉山　茂）

3組の予選リーグから各組1、2位が決勝リーグへ進む。予選での対戦記録はそのまま活かされるから息をぬけない。しかも第1日（予選）は2試合、第2日以降は連続4日間4試合の強行日程、体力がモノをいう大会でもある。各組3位による7〜9位決定リーグも行われる。

予選A組は5連勝を狙う大洋デパート（熊本）がやはり一歩リードしている。6月のNHK杯（別掲）では枝尾、渡辺、三宅（いずれも昨冬の世界選手権代表）の抜けた穴が埋まり切らず苦戦したが優勝を遂げている。全員の自信の賜だ。日本ビクター（茨城）はたくましさを増した。NHK杯では、ともかくも大洋を2点差（12—10）まで追いあげており面白い。ブラザー工業（愛知）も上向きである。ディフェンス力に不安はあるが金村、藤浪、長塚、鳥居らの攻撃力は侮れない。

B組は東京重機（東京）と田村紡（三重）が東北ムネカタ（福島）を上廻ろう。ムネカタも着実に力を引きあげ、伊賀、後藤、渡部、165cmの新人・有賀（福島石川高）らのプレーは注目されるが、キャリアの点で前二者とまだ差がある

C組は韓国ナショナルともいうべき白花醸造（韓国）がトップに立ちそうだ。大崎電気（埼玉）は昨年1勝1敗だが、大崎は今春チーム編成にてまどってようやく寺尾（世界選手権代表）長谷川智新島、岩井、佐藤、GK和田らで持ちなおしてきたばかり。苦しい。

初登場の扇屋（千葉）は、来秋の千葉国体を目指し伊藤、戸村、塩谷、桜井、木村、GK鶴岡ら地元の有力選手に山村（真備）村上（夙川）らのホープを加え張り切っている。

梶岡監督は「まだまだ参加するのが精いっぱい。どこか一つでも喰えれば……」と控え目だが、今後を見守りたいチームである。

追う重機、ビクター、田村紡

波乱がなければベスト6は大洋デパート、日本ビクター、東京重機、田村紡、白花醸造、大崎電気。

このなかからさらに優勝戦線へ焦点をしぼると大洋、ビクター、東京重機、白花の4者に落ちつき大洋の5連勝成るかと、白花の進境ぶりがみどころになってくる。

白花に対しては、昨年までは「ようこそムード」だったが、今年は各チームともはっきり「好敵手」としてその実力を認めている白花のからむ各カードは緊迫した好試合になるだろう。これまで日本チームとの対戦で32点（7試合）をマークしている169cmの左腕・李純玩、俊敏な俞慶淑の両エースがますます元気だし朴光子、権美子、尹永全、GK李貞順らの堅実なプレーは一流だ。

本命・大洋デパートは個性的な3選手が退陣したが垂水、米、島田、GK小原（いずれも世界選手権代表）と攻守の柱は健在。蔵田、釼、篠田ら新進の成長もあって抜群の厚味を誇っている。井監督の臨機応変の策戦にこたえるだけのセンスを全選手がもっているのもすばらしいと思う。5連勝有望とみたい。井監督がマークしているのは東京重機。滝口、牧野、古佐原の世界選手権トリオに村上、市川、葛西、新人・折口（山陽女）GK長岡とスキのない布陣である

日本ビクターは蓮見姉の好リードで八重樫、大塚、富山、蓮見妹、谷沢、山口らの持ち味が活かされ見ちがえるようなチームに変ぼうしている。GK渡辺も手固い。

ダークホースは田村紡。長身の三毛（世界選手権代表）と広森のパワーを活かす大型チームへ一歩一歩近づいている。

なお、北海道で全国大会が行われるのは33年8月の第9回全日本高校（函館）以来14年ぶりのこと。

白花醸造は9日10時15分羽田着同日午後室蘭入りの予定。

予選リーグ組合せ

▽A組
大洋デパート（熊本）
ブラザー工業（愛知）
日本ビクター（茨城）

▽B組
東京重機工業（東京）
田村紡（三重）
東北ムネカタ（福島）

▽C組
白花醸造（韓国）
〜特別参加〜
大崎電気（埼玉）
扇屋（千葉）

白花醸造予想メンバー

監督	金　栄佑	(32)
GK	李　太姃	(19)
	李　貞順	(19)
FP	黄　月暎	(21)
	尹　永全	(19)
	李　純玩	(18)
	俞　慶淑	(19)
	鄭　淳福	(21)
	安　庚淑	(19)
	権　美子	(19)
	卓　英子	(18)
	高　喜竜	(19)
	朴　光子	(20)

大山商会が初優勝

～全国実業団トーナメント～

三菱レ大竹と共に上位リーグへ

昭和47年度全国男子実業団トーナメントは6月18日から21日まで岐阜市・県民体育館に34チームが参加、9月の上位リーグ（全日本実業団選手権）目指して熱戦をくりひろげ大山商会（大阪）と三菱レイヨン大竹（広島）がリーグへの出場権を獲得。両者による決勝は大山商会が勝つた。

新日鉄、鋼管福山に快勝

北電は自衛隊勝田降す

▽1回戦（2試合）

トヨタ車体（愛知）	29	16 13	7 8	15	京都信用金庫（京都）
日本鋼管京浜（神奈川）	24	13 11	13 10	23	三友工業所（愛知）

▽2回戦

セントラル自動車（神奈川）	27	16 11	11 5	16	川崎重工（兵庫）
境港市役所（鳥取）	26	15 11	4 4	8	自衛隊春日井（愛知）
日本発条（神奈川）	24	14 10	9 7	16	三井石油化学（山口）
三洋電機（岐阜）	23	11 12	5 6	11	タヨシ産業（愛知）
大山商会（大阪）	36	18 18	8 7	15	静岡日野自動車
日新製鋼呉（広島）	33	17 16	5 5	10	丸善石油千葉
トヨタ車体（愛知）	35	17 18	12 10	22	安田生命（東京）
日本耐酸壜工業（岐阜）	29	18 11	12 4	16	丸善石油松山（愛媛）
三菱油化（三重）	22	14 8	7 12	19	日本鋼管京浜
金沢市役所（石川）	33	15 18	8 5	13	富士レジン（兵庫）
北陸電力福井	21	10 11	8 10	18	自衛隊勝田（茨城）
丸善石油下津（和歌山）	31	19 12	6 7	13	トヨタ自動車（愛知）
神戸製鋼所（兵庫）	20	13 7	5 7	12	日進商会（神奈川）
新日鉄名古屋（愛知）	21	11 10	7 7	14	日本鋼管福山（広島）
日本合成ゴム（三重）	19	8 11	8 7	15	二和家具工業（岐阜）
三菱レイヨン大竹（広島）	27	16 11	8 2	10	自衛隊第三術科校（千葉）

○……1回戦では鋼管京浜×三友が大乱戦。後半20分20－16と鋼管が2度目の主導権を握った時はそのままかと思えたが三友は大矢、吉金のコンビで粘り最後までもつれた。鋼管は29分笹本のゲットで24－22としどうやらメドをつけた

○……2回戦では三菱油化×鋼管京浜が激しく得点をいれあった。前半優位の鋼管は、後半も順調に加点、10分には15－11としたが、15分をすぎて三菱油化はスパート、栗山の大活躍と田島の7MTで24分19－18と逆転、そのあと再び栗山、田島で得点をあげ押し切ってしまった。

注目の新日鉄×鋼管福山は新日鉄が細川、渡辺、鏡味らの巧技で前半リードを奪い、後半なかばやや追いこまれたものの危気なかった。

○……北陸電力×自衛隊勝田は後半開始直後北電は加藤の好シュートで点差をあけ、その優位を守り切った。

神戸製鋼所×日進商会は後半日進が崩れてしまったが、前半はチャンスを活かしあってなかなか見応えがあった。

金沢市役所らベスト8に

▽3回戦

セントラル自動車	19	7 12	11 3	14	境港市役所
日本発条	32	17 15	7 1	8	三洋電機
トヨタ車体	27	16 11	5 8	13	丸善石油松山
大山商会	16	6 10	9 3	12	日新製鋼呉
金沢市役所	22	1 1 ⋮ 12 8	0 1 ⋮ 8 12	21	三菱油化
神戸製鋼所	21	10 11	4 10	14	新日鉄名古屋
丸善石油下津	21	9 12	4 7	11	北陸電力福井
三菱レイヨン大竹	28	16 12	3 3	6	日本合成ゴム

○……金沢×三菱油化が延長の熱戦を演じた。前半劣勢の金沢は後半見ちがえるばかりに動きがよくなり水野の好プレーで点差をつめたあと28、29分北野の連続得点で20－20。延長後も先手は三菱がとったのだが金沢は21－21から時間切れ1分前、北野がまたも殊勲打を放ってベストへ進んだ。

○……神戸製鋼所×新日鉄は後半開始と同時に神戸の攻撃力が爆発10分16－10と放して主導権を握った。

このほかの試合は強豪が順当勝ち、セントラルに後半食い下った境港市役所の攻撃力が目立った程度である。ダークホース視されていた日新製鋼呉は前半があまりにも不出来、大山の巧い攻守に25分9－2と放されてしまった。後半15分8－12としたのが精いっぱいで期待はずれの凡戦だった。

日本発条、セ自動車を制す

丸善石油下津勝ち進む

▽準々決勝

日本発条 17（6－3／11－13）16 セントラル自動車

得	【日発】		【自セ】	得
0	清水	GK	新樹	0
		GK	片桐	0
1	北村	FP	羽毛田	3
8	小野口	FP	若崎	2
2	福田	FP	加藤	0
1	伊沢	FP	吉田	0
1	石塚	FP	渡辺	0
0	高野	FP	吉沢	1
4	井上	FP	布施	7
0	高松	FP	岩本	0
0	丸茂	FP	中村	3
0	渡辺	FP	大沢	0

（審・小西 井田島）

17（2）7MT（3）16

○……手の内を知りあった同士。後半18分日発は14－10と開いたが、セントラルも追いかけ25分13－15しかし日発は26分小野口、27分伊沢で17－14として追いすがるセントラルを振り切った。

大山商会 21（10－5／11－11）16 トヨタ車体

得	【大山】		【車体】	得
0	入江	GK	遠山	0
0	川原	GK	高山	0
8	土田	FP	宮松	6
3	奥川	FP	松本	0
1	橋本	FP	山田	6
4	佐藤	FP	山口	2
1	伊藤	FP	安井	1
4	前島	FP	村田	0
0	水谷	FP	幸	0
0	山口	FP	高橋	1
0	中村	FP	横尾	0

（審・岡田 吉田）

21（1）7MT（3）16

○……互角の戦況から大山は前半15分すぎ土田の好プレーと相手ミスに乗じて一気に加点、これが勝因となった。トヨタは後半も五分に挑んだだけに前半なかばの乱れが悔やまれよう。

丸善石油下津 22（12－7／10－7）14 金沢市役所

○……金沢の健闘が光った。総合力で優る丸善は先制点を奪われたもののすぐ追い抜き15分には7－3。金沢はひるまずチャンスを確実に活かして追ったのだが、丸善には余裕があり刀禰、松本らでねじ伏せた。

得	【丸善】		【金沢】	得
0	海端	GK	竹中	0
0	北畑	GK		
1	岸本	FP	石野	5
7	刀禰	FP	水野	4
3	中崎	FP	山岸	0
0	加古	FP	瀬藤	0
1	辻井	FP	森谷	2
6	松本	FP	北野	3
3	三木	FP	奥村	0
0	小川	FP	平木	0
0	上辻	FP	四月朔日	0
1	松川	FP	坂井	0

（審・近藤 田島）

22（0）7MT（3）14

三菱レイヨン大竹 19（9－7／10－4）11 神戸製鋼所

得	【三菱】		【神戸】	得
0	中村	GK	宮永	0
0	藤本	GK		
4	沖重	FP	古川	1
7	大江	FP	佐藤	1
0	田中	FP	前田	0
2	善本	FP	水野	0
2	山川	FP	角谷	2
2	岩本	FP	吉田	3
0	兼森	FP	若本	1
0	岡村	FP	笹野	3
0	村本	FP	友広	0
2	松本	FP	木村	0

（審・丸岡 吉川）

19（2）7MT（1）11

○……神戸は前半20分まで7－7と互角に進めたが、三菱は前半終了まぎわにあげた岩本と大江（全日本）のゴールを活かして優位に立ち、後半はGK藤本の堅守もあって制勝。

大山商会、押し切る

▽準決勝

大山商会 22（13－5／9－11）16 日本発条

得	【大山】		【日発】	得
0	川原	GK	清水	0
0	入江	GK	仲沢	0
9	土田	FP	北村	1
0	奥川	FP	小野口	1
4	前島	FP	福田	2
4	佐藤	FP	伊沢	3
0	伊藤	FP	石塚	6
0	山口	FP	高野	3
0	水谷	FP	井上	0
5	橋本	FP	高松	0
0	中村	FP	丸茂	0
		FP	渡辺	0

（審・小西 吉田）

22（1）7MT（5）16

○……大山は前半10分すぎから攻撃が波にのりエース土田を軸に矢次早に得点。日発はロングシューターに人を欠き終盤追いあげたものの形勢を逆転するまでには程遠かった。

三菱レ、前半で優位保つ

三菱レイヨン大竹 21（11－6／10－5）11 丸善石油下津

得	【三菱】		【丸善】	得
0	藤本	GK	海端	0
0	中村	GK	北畑	0
0	田中	FP	岸本	0
3	兼森	FP	辻井	0
5	松本	FP	三木	1
4	大江	FP	松本	3
3	沖重	FP	刀禰	5
4	山川	FP	中崎	1
0	岩本	FP	加古	0
1	岡村	FP	松川	1
0	村本	FP	上辻	0
1	善本	FP	山川	0

（審・岡田 田島）

21（2）7MT（0）11

○……三菱は15分6－0と開く鮮やかな先制攻撃を見せ、単調な丸善を突きはなした。

得点差ほど力の差はないと思うがこの試合に限っていえば三菱の走り勝ちである。

3位に日発、4位丸善下津

▽3位決定戦

日本発条 21（13－9／8－10）19 丸善石油下津

○……総合力に優る日発は終始試合の主導権を握り楽にゲームを進めていたが、終盤疲れと気のゆるみから丸善の反撃を許し20－15から一気に20－19まで追い詰められた。しかし25分すぎ再び立ちなおり29分ダメ押しの1点を加えて辛くも3位の座を握った。（鈴木）

伊藤（大山商会）、貴重なゴール

▽決勝

大山商会 13（7－7／6－5）12 三菱レイヨン大竹

得	【三菱】		【大山】	得
0	藤本	GK	川原	0
0	中村	GK	入江	0
1	田中	FP	土田	6
0	兼森	FP	橋本	3
2	松本	FP	奥川	0
8	大江	FP	前島	1
0	沖重	FP	佐藤	1
0	善本	FP	伊藤	2
1	山川	FP	山口	0
0	岩本	FP	水谷	0
0	岡村	FP	中村	0
0	村本	FP		

（審・吉川 丸岡）

12（1）7MT（0）13

○……決勝らしい好試合だった。一進一退の経過は容易にくずれず16分8度目の同点（12－12）となったあと、しばらく小康状態となり緊張したムードがつづいたが、大山は22分40秒伊藤が貴重なゴールを決め13－12、これが決勝点になった。

○……先手は大山がとったが、三菱は大江の巧技で盛り返し、たえず同点または1点差という大接戦。後半、大山はGK川原がピンチを再三にわたって救いかくれた勝因となった。

三菱は終盤焦りも手伝い、じっくり攻めれば思えるチャンスも再三あったのだが逸機したのは惜しまれる。

○……大山は土田、橋本をはじめ比較的ムラのない攻撃陣を布いていたのがよかった。（岡田）

上位リーグ出場チーム　全日本実連は今秋9月27日から名古屋で開く第13回全日本実業団選手権（男子・日本実業団リーグ）に出場資格をもつ8チームを次のように発表した。

ワクナガ薬品(大阪)、大崎電気(埼玉)、大同製鋼(愛知)、三景(東京)、住友化学菊本(愛媛)、本田技研鈴鹿(三重)、大山商会（大阪)、三菱レイヨン大竹（広島）

クラブ的実業団の典型
―優勝の大山商会

実業団ハンドボールのタイプは全社的バックアップをうけているチームと、同好の士が集って編成しているチームに分けられる。

大山商会は後者の典型。専務の山田稔氏（46才、大阪工専出、日本協会監事）が永いあいだ夢に描いていたチーム結成を実現したのは4年前。今をときめく湧永薬品（大阪）と同じスタートである。

社内では専務お声がかりのハンドボール部員だからといって特別扱いは一切されないし、練習も午後5時以降に限る。「仕事第一、ノンアマチュアであってはいけない」（山田氏）という主義に共鳴して入社を希望して来る選手もあるという。

「我々と同じ立ち場のチームが多い全国実業団トーナメントで優勝するのが目標でした。上位リーグ?、せいいっぱいやるだけです」と中村監督の優勝談話も清々しい。

大山商会の〝成功〟はクラブ的実業団に大きな励みを与えたものとして高く評価されよう。

大会後記
田中　滋章

日本鋼管京浜が1回戦で三友工業に1点差で辛うじて勝ったものの、二回戦では三菱油化に逆転敗け、またその三菱油化も金沢市役所に延長の末敗れるというように一～二回戦から激戦が続いた。川崎重工、境港市役所がセントラル自動車に善戦すれば、セントラルも同県の日本発条に1点差敗け、また日進商会、新日鉄名古屋を敗った神戸製鋼も特筆される。

このように一～二回戦から高水準の好ゲームが見られるようになったのは、どのチームも非常によく訓練されており、この大会のために調整が充分にされていることがうかがえた。

大山商会は待望のリーグ入りを果し、大江らを加えた三菱レ大竹が再び脚光を浴びることになった。一方昨年リーグ入りしたセントラルを敗った日本発条、例年若さ一杯の丸善石油下津が再び苦杯を喫したのは気の毒であった。なお一層の奮起を望みたい。

チームでは神戸製鋼。金沢市役所、三井石油、日新製鋼呉、トヨタ車体などが目立った。

また随所に高校卒の優秀な選手が多数見られ、今後何とかして彼等を陽の当る場所へ出してやりたいと思う。（全日本実連理事長）

公認審判員
中央研修会開く

日本協会審判部は5月27、28の両日東京・オリンピック記念青少年総合センターを主会場に今年度の公認審判員中央研修会を行った。

参加したのは各都道府県協会、各加盟団体から推せんされた1名の審判担当代表者と日本協会審判部員合わせて63名で、競技規則解釈の統一と審判技術の向上、特にアドバンテージの解釈、7mスローの判定と警告退場の判定、チャージングの判定について熱心な研究が行われた。

なお、この研修会に先立って26日には今年度の「A・B級公認審判員審査」が全国からの申請者13名（A2、B11）によって行われ実技テストとペーパーテストで審査を受けた。結果は近く各受験者の所属都道府県協会へ連絡される。

日韓審判会議、足ぶみ

日本協会では日韓両国の審判技術の向上と、判定解釈の調整を行うため韓国協会関係者と話合う機会を求め、来日した慶熙大に同行する鄭鎮圭氏（韓国協会競技理事）と打合せを行う予定にしていたが、同氏の来日がとりやめになったことで、改めて韓国協会と連絡、早期の実現を企ることにした。

ブロック高校たけなわ

インター・ハイの前哨戦――各ブロック高校選手権は各地で相次いで行われ前年度男子チャンピオン・湯沢（秋田）が東北の準々決勝で敗退するなど波乱が多く、九州で小倉西(福岡)、熊本女商が初制覇したのをはじめ新鋭校の進出が目立った。

このほか、北海道は函館有斗と函館女商、東北は仙台育英(宮城)と秋田和洋女、北信越は小杉（富山）と小松市女(石川)、注目の関東は男子が中大附(東京)、女子が国学院栃木、激戦地の東海は男子が清水商(静岡)、女子が高蔵（愛知）の優勝に決まった（いずれも詳報次号）。

中沢氏も常務理事　日本協会では6月11日の全国理事会で新たに全日本学連選出理事となった中沢重夫氏（芝浦工大出）を常務理事に互選した。

鹿児島国体に高校女…沖縄　沖縄協会は今秋の鹿児島国体に高校女子の代表を派遣することに決めた。

本土勢は7校…沖縄国体　来年5月コザ市で開かれる沖縄特別国体ハンドボール競技は高校・女子8チームによって行われることが確定。

本土側は7チーム（7県）に決まった。

おわびと訂正

▽本誌98号6頁4段左から6行目「日体協会審判部に検討を委せた」は「日本協会……」の誤りでした。

▽同23頁関東学生リーグ男子1部で次の3試合の記録が脱落。

日　体 16（8―5、8―3）8 東京教大
東京教大 13（8―6、5―6）12 立　教
中　央 18（8―3、10―3）6 立　教

▽同32頁・愛知県実業団リーグの出場チーム中、日本硝子は日本碍子の誤りでした。

日韓女子社会人交流リポート 下

第1戦の反省

長岡 範子

試合の行われた体育館は宿舎からバスでおよそ20分、円形の建物でボクシング・ホールのような感じ。フロアには四角く仕切られたコートが塗り分けられ、狭いうえにいっそうやりにくく感じた。しかも照明力が乏しい。試合球も軽くよくはずむのがかなり日本での試合とは感覚が違った。韓国には日本のように広く明かるい体育館はないのだろうか。白花醸造はこのような条件に慣れているのだろうか。

白花のプレーで目立ったのはルーズボール、リバウンドなどの処置の敏速さだった。身体がうらやましいほど柔軟である。個々の選手では左腕・李純玩(169cm)の単独的なスタンディングシュートに苦しめられた。全般的に韓国はスタンディングタイプでポストもほとんど使っていない。ジャンプシュートがこの国では未消化なのだろうか。

レフェリーもポストの飛びこみに対する見方は日本の場合とだいぶ異る。辻選手(田村紡)のポストプレーなどほとんどラインクロスとされ、痛手になった。

日本のシュートに対するディフェンスは凄じいものだった。この点は我々も見習わなければならない。前半1点リードの優位も後半トップ俞慶淑のカットによる単独速攻を浴び第1戦に敗れた。反省されるのはシュートの確率の悪さポストプレーを活かしきれなかったこと、後半の守りの乱れなどである。合宿期間も短かく充分にお互いを〝理解〟できずコンビネーションがととのわなかったのは改めてチームプレーの難しさも知らされた。

またレフェリー、試合環境などいかなる条件であっても自分の力を充分に出し切って、どこでも通用するプレィヤーにならなくてはいけないと思った。(GK、東京重機工業)

第2戦を顧みて

和田 祥子

第1戦同よう体育館は満員。日本国内の試合もこれほどファンが入ったらどんなにすばらしいだろう。

コートが狭いのでGKからのワンパスによる速攻はさけ、小さいパスのつなぎを速くしていくように指示をうけていたが、コート内が暗く大変やりにくかった。前半はともに守りが悪く乱戦模様だったが、後半は相手の単調なシュートをきっかけ速いパスワークで気をぬいた鳳永ディフェンスのすきをついて加点できた。得点のチャンスはかなりあったがポストシュートのラインクロスや「退場」をとられ、活かせなかった。それらの判定は必しも納得のいくものばかりではなく試合中にハラの立つこともしばしばあった。しかしなんといおうとレフェリーの権限は絶対のものであり、また私たちの力はそのようなことで左右されてしまうものではなかったと思う。

海外遠征というもの、国際試合というものがどのように難かしいものであるかを痛感した。(GK 大崎電気)

第2戦の反省

村上 朋美

韓国独得のオフェンスとディフェンス、日本と異る判定が第1戦の反省点であった。それらを頭に入れての鳳永クラブ戦、出足はよく速攻、セットと連続ゴールを決めこれなら「いける」と思ったのだが、韓国の得意とする不意に射ちこむシュートに手が出ずせりあいを演じてしまった。

後半はどうにか私達のペースで試合を進めることができ初勝利をあげた。

この試合によって一番感じたのはせまいコートを巧く利用してプレーした韓国チームの速攻である。日本ではコートが広くても狭くても速攻の場合どうしてもクロスパスーロングシュートーポストという具合になる。しかし韓国は一瞬の出足から速攻を展開させるのだ。見習うべきところがあった

卒直に云って日本より技術的な一つ一つのプレーは劣るが、全体的に皆が動くプレーにはよさが感じられる。

私達のチームは押している時はよかったものの、劣勢になってくるとつい他の選手に頼る傾向が生じた。これはチームのしての練習量が不足していたことによるもので「混成チーム」の難しさとはこのことをいうのだろう。

チーム練習が多ければ一人々々のプレーの特長を覚えこめチームワーク、チームプレーに実ると思う。今回の諸経験を活かしこれからの選手生活に励んでいきたいと思います(FP 東京重機工業)

現在の韓国と白花戦の反省

伊賀かほる

これまで閉ざされていた日韓女

子の交流が5月1日から10日間の我々の遠征で急激に開けた感じが致します。ハンドボール関係者も日本女子の韓国遠征は初めてとあって大きな期待と幅の広い交流を望み送り出して下さいました。

私達一行も強い決意を固めてソウル市へ乗りこみました。韓国の人たちは40才以上のかたは日本語を話せ、なにか親しみ易い感じがしました。しかし夜の12時以降の歩行禁止、長髪禁止などは韓国の現在の世情を物語るものであり、年少者の労働者が非常に多いのにも驚ろかされました。

さて試合のほうは4戦2勝2敗の成績に終わり、特に2敗はいずれも白花醸造であったことは悔やまれます。

白花の選手は私達と比べて身長、体重などほとんど差はなく、むしろ日本選手の方が上背では優っているようでした。

白花の攻撃は2人、3人によるコンビネーションプレイというよりも一人々々の突進力を軸にしたもので、ワンパス、ワンクロスのあとステップからシュートを放つというシンプルな戦法でした。守りでも日本側のボール廻しに積極的なカットから速攻のきっかけをつかもう、とするもので一線に3人ないし4人がとび出しショートパスでつないで攻めこんできました。

日本にとって連敗するような相手とは思えないのですが、コートが狭いにも拘らず広いコート（40m×20m）の感覚を捨て切れず大きいモーションで前へボールを出し2段、3段と攻めていたために詰まりすぎてラインクロスをしたり、相手ディフェンスに止められてしまうケースが非常に多かったことを反省しています。

コートの狭さについては出発前から少しは耳にしていたのですが実際に来てプレーしてみると想像以上にやりにくく照明も暗いためボールが見にくいのもハンデでした。

ところで韓国の審判の判定ですが、日本とかなり異る点がありとまどわされました。例えばポストにボールが入った場合、ディフェンスが押したり、ひっかけたりした時はフリースロー、状態によっては7MTをとりますが、そのまま入らなかった時は続行しているのです。

またボールを持って突っこんで来る者に対してのアタックの場合現在日本で許されているような方法は「警告――退場」となりますが同じ国際連盟の規則を使いながらどうして解釈に差が生じるのか私たちが未熟なのか、ずい分考えましたが、やはりいかなる環境のなかでも対応できる各自の心構えが〝第一〟であると感じました。

最後になりましたが韓国の関係者、役員の皆様は本当に私達の面倒をよくみて下さり、有意義な親善試合で終れました。感謝しております。これからもこの遠征の体験を活かして頑張りたいと思っています。（FP・東北ムネカタ）

女子の訪韓選手団報告これでおわります。それぞれ特徴のある面白い原稿をよせてもらうことができました。多くの実りがそれぞれの選手の上にあったものと思います。

▽第1戦（5月3日・ソウル奨忠体育館）審判＝金鎖河、李峰一

白花醸造 15（5－6、10－4）10 全日本実業選抜

【白花】	得		【日本】	得
李貞順	0	GK	岡田	0
		GK	和田	0
尹永全	0	FP	蓮見	1
李純玩	8	FP	佐藤あ	0
俞慶淑	4	FP	広森	5
鄭淳福	0	FP	八重樫	0
権美子	1	FP	蔵田	1
高善竜	0	FP	村上	1
朴光子	2	FP	藤浪	1
		FP	金村	0
		FP	辻	1

10（1）7MT（1）15

▽第2戦（5月5日・ソウル奨忠体育館）審判＝金正秀、尹

全日本実業選抜 17（10－9、7－3）12 鳳永ク

【鳳永】	得		【日本】	得
房順実	0	GK	佐藤玲	0
		GK	和田	0
林仁淑	1	FP	蓮見	1
具英珠	0	FP	辻	0
俞慶淑	6	FP	村中	3
朴妙順	2	FP	広森	1
金敬愛	0	FP	八重樫	4
鄭淳福	1	FP	蔵田	5
金玉淑	0	FP	村上	1
趙泰順	0	FP	藤浪	0
安庚淑	2	FP	伊賀	2
		FP	金村	0

17（4）　（0）12

▽第3戦（5月6日・釜山体育館）審判＝李善行、李満夫

全日本実業選抜 26（15－1、11－3）4 全韓星女大

【韓星】	得		【日本】	得
申恵泳	0	GK	長岡	0
		GK	佐藤玲	0
金潤順	1	FP	佐藤あ	6
金順玉	1	FP	蔵田	3
申太鈺	0	FP	伊賀	1
李徳子	1	FP	辻	1
宋徳順	0	FP	蓮見	3
蒋明瑞	1	FP	八重樫	3
尹春泳	0	FP	藤浪	7
李二明	0	FP	村上	0
		FP	村中	2
		FP	広森	0

26（3）7MT（0）4

▽第4戦＝最終戦（5月9日・全州高体育館）審判＝金、尹

白花醸造 11（5－2、6－5）7 全日本実業選抜

【白花】	得		【日本】	得
李貞順	0	GK	和田	0
		GK	長岡	0
黄月瑛	0	FP	藤浪	0
李純玩	1	FP	蓮見	2
尹永全	3	FP	佐藤あ	0
鄭淳福	1	FP	広森	2
俞慶淑	3	FP	八重樫	1
権美子	1	FP	蔵田	1
卓英子	0	FP	村上	0
高善竜	0	FP	伊賀	0
朴光子	2	FP	辻	1
安庚淑	0	FP	金村	0

7（1）7MT（0）11

春季学生リーグ戦記録（下）

大阪体大、初優勝飾る（加盟7年目）

関西（男子）

◇5月7日～25日◇京都市立体育館ほか◇1部6校、2部6校、3部6校、4部8校。

3シーズン連続2位に甘んじていた大阪体大が宿願の初優勝を遂げた。西日本学生（4月・京都）で攻守に抜群の安定度を示したが、このリーグ戦でも坂本、中出、白柳、福永らの攻撃力とGK宍倉を要とした守備力を存分に発揮、エース中村の故障によるマイナスを感じさせなかった。41年春の新加盟以来13シーズン目のことで関西学連史上かつてない〝スピード記録〟だ。2位には牧野、上田、横川、入江、新人・大庭（佐世保北高）ら巧みな攻撃を見せた同志社が久々に食いこんだ。3連勝を目指していた大阪経大はやはり卒業の痛手を埋め切れず3位に終ったが、大体大、同志社、大経大の実力は伯仲しており秋季での激戦が期待される。

注目の京都産大は序盤で2敗を喫し波にのれぬまま4位、返り咲きの関大が5位となった。

名門関学が5連敗で最下位となり、入れ替え戦でも敗れて2部へ転落したのは時の流れとはいえあまりにも淋しい。部員不足から出場さえ危ぶまれていたほどだった30得点、148失点。入れ替え戦でも完敗だけに前途は多難だが、昭和23年以来49シーズンに25回優勝（全日本学生王座獲得8回）という盟主の復活を待ちたい。

2部は京大、竜谷の争いとなり竜谷は桃山学院に手痛い1敗をきっし京大が僅差で優勝（4度目）、4年ぶりで1部復帰を決めた。3部は近畿大が大阪大以下をおさえて2連勝、4部は4校づつのリーグのあと大阪工大と大阪歯大が首位を争い大阪工大が逆転勝ちで初優勝を飾った。

関西学生春季（男子1部）

	体	同	経	産	関	学	P	勝	負
①大体大	…	○	○	○	○	○	10	5	0
②同志社	●	…	○	○	○	○	8	4	1
③大経大	●	●	…	○	○	○	6	3	2
④京産大	●	●	●	…	○	○	4	2	3
⑤関　大	●	●	●	●	…	○	2	1	4
⑥関　学	●	●	●	●	●	…	0	0	5

Pはポイント（勝ち点）

【2部順位】①京大P9（4勝1分）②竜谷7（3勝1分1敗）③甲南・桃山学院6（3勝2敗）⑤神戸大2（1勝4敗）⑥追手門学院0（5敗）

▽1部

同志社	16	8－5	8－4	9	京都産大
大阪体大	33	17－2	16－2	4	関学
大阪経大	17	9－4	8－4	8	関西大
同志社	19	9－6	10－4	10	関西大
大阪経大	26	19－3	7－0	3	関学
大阪体大	19	9－6	10－4	10	京都産大
大阪体大	26	15－5	11－1	6	関西大
同志社	11	6－4	5－4	8	大阪経大
京都産大	33	18－3	15－2	5	関学
大阪体大	14	8－3	6－7	10	大阪経大
同志社	29	18－6	11－4	10	関学
京都産大	19	10－2	9－6	8	関西大
関大	27	12－4	15－4	8	関学
大阪経大	11	9－7	2－2	9	京都産大
大阪体大	14	8－5	6－3	8	同志社

◇得点王、福永（大体大）、牧野（同志社）26

京大、竜谷引き分ける

▽2部

桃山学院	19－17	神戸大
竜谷	24－16	甲南
京大	28－8	追手門学院
甲南	17－7	追手門学院
桃山学院	26－21	竜谷
京大	30－14	神戸大
甲南	14－7	桃山学院
神戸大	17－7	追手門学院
京大	21－18	甲南
竜谷	28－9	神戸大
京大	16（分）16	竜谷
桃山学院	19－12	追手門学院
竜谷	24－14	追手門学院
京大	23－11	桃山学院
甲南	20－14	神戸大

◇得点王、福井（京大）41

近畿大全勝で2連勝

▽3部

大阪府大	22－10	大阪市大
大阪大	10－9	立命館
大阪大	18－14	大阪市大
近畿大	18－15	京都教大
京都教大	18－17	大阪市大
近畿大	16－10	立命館
京都教大	20－18	大阪府大
大阪大	18－15	大阪府大
京都教大	17－14	立命館
近畿大	21－12	大阪市大
大阪府大	22－18	立命館
大阪大	21－13	京都教大
近畿大	26－12	大阪府大
近畿大	18－15	大阪大
大阪市大	18－16	立命館

【順位】①近畿大勝ち点10（5戦全勝）②大阪大8（4勝1敗）③京都教育大6（3勝2敗）④大阪府立大4（2勝3敗）⑤大阪市立大2（1勝4敗）⑥立命館0（5敗）

大阪工大、大阪歯大を降す

▽4部A組

大阪外語大 14－11 和歌山大
大阪工大 31－12 天理
天理 18－17 大阪外語大
和歌山大 19（分）19 天理
大阪工大 25－5 大阪外語大
大阪工大 23－13 和歌山大

【順位】①大阪工大②天理③大阪外語大④和歌山大

▽同B組

大阪歯大 16－15 大阪薬科大
関西外語大 25－9 京都工繊大
大阪薬大 21－17 京都工繊大
関西外語大 11－7 大阪歯大
大阪薬大 13－7 関西外語大
大阪歯大 31－12 京都工繊大

【順位】①大阪歯科大②関西外語大③大阪薬科大④京都工業繊維大

▽同7・8位決定戦

和歌山大 19－9 京都工繊大

▽同5・6位決定戦

大阪薬大 18－10 大阪外語大

▽同3・4位決定戦

関西外語大 25－21 天理

▽同1・2位決定戦

大阪工大 19－18 大阪歯大

京大、近大が昇格

▽各部入れ替え戦（5月・追手門学院）

▽1・2部

京大（2部）35（20－3 15－8）11 関学（1部）

▽2・3部

近畿大（3部）31（13－1 18－9）10 追手門学院（2部）

▽3・4部

立命館（3部）13－12 大阪工大（4部）

…大阪体大全成績（本誌調べ）…

昭41	春	2部④（新加盟）
	秋	2部④
昭42	春	2部②
	秋	2部③
昭43	春	2部優勝・昇格
	秋	⑥5戦5敗
昭44	春	⑥5戦5敗
	秋	2部②
昭45	春	2部優勝・昇格
	秋	②4勝1敗
昭46	春	②4勝1敗
	秋	②4勝1敗
昭47	春	①5戦全勝

……1部通算30戦17勝13敗……

関西（女子）

甲子園短大、5度目の優勝

◇5月7日～25日◇大阪市中央体育館ほか◇参加5校

甲子園短大がライバル・大阪体大の3連勝を阻むとともに3シーズンぶり5度目の優勝を飾った。

優勝争いは予想どおり甲子園、大阪体大となり、両校は無キズのまま最終戦で顔を合わせたが甲子園短大が後半相手の動きが鈍くなったスキをつき逆転勝ちに成功した。

大阪体大 17（5－2 12－0）2 武庫川女大
甲子園短大 17（4－0 13－1）1 大阪薬大
甲子園短大 15（7－1 8－1）2 大阪教大
大阪薬大 10（8－2 2－1）3 武庫川女大
大阪体大 18（7－3 11－5）8 大阪教大
甲子園短大 23（11－0 12－2）2 武庫川女大
大阪教大 13（6－2 7－2）4 武庫川女大
大阪体大 17（8－1 9－1）2 大阪薬大
大阪教大 14（6－2 8－5）7 大阪薬大
甲子園短大 7（3－4 4－1）5 大阪体大

【順位】①甲子園短大勝ち点8（4戦全勝）②大阪体大6（3勝1敗）③大阪教大4（2勝2敗）④大阪薬大2（1勝4敗）⑤武庫川女大0（5敗）◇得点王 花谷（大体大）26

中四国

山口大4度目のタイトル 松山商大の4連覇成らず

◇5月27、28日◇岡山大球技場◇1部5校、2部6校

1部は3シーズン連続して山口大、松山商大の優勝争いとなり、山口大が松山商大の4連覇を阻み4シーズンぶりでタイトルを握った。山口大の優勝は35年秋の王座中四国大会を含めて4度目（春は45年について2度目）。1部初登場の広島工大が3位に入った。

2部は広島商科大と愛媛大の決勝から広島商科大が快勝した。3度目の優勝である。

▽1部

松山商大 18（9－2 9－6）8 広島大福山
山口大 16（8－2 8－9）11 広島工大
近大呉 14（6－7 8－5）12 広島大福山
松山商大 24（17－4 7－5）9 広島工大
山口大 15（6－3 9－2）5 近大呉
広島工大 15（9－10 6－5）15 広島大福山 引き分け
山口大 13（7－4 6－4）8 松山商大

	【松商】	得	【山口】	得
GK	佐竹	0	野口	0
GK	小林	0		
FP	大山	4	米沢	5
	赤松	0	田村	0
	筒井	3	田辺	3
	上野	1	西本	3
	山口	0	桑原	2
	池田	0	井手	0
	近沢	0	浜田	0
	井上	0	佐藤	0
	松浦	0	藤嶋	0

（審・猪原・大西）

13（1）7MT（1）8

【順位】①山口大4戦全勝②松山商科大3勝1敗③広島工大1勝2敗1分④近大呉工学部1勝3敗⑤広島大福山3敗1分

▽2部A組

愛媛大 18－15 広島大
香川大 16－10 広島大
愛媛大 12－7 香川大

▽同B組

岡山大 26－4 山口大工学部
広島商大 18－16 岡山大
広島商大 43－9 山口大工学部

▽同5、6位決定戦

広島大 15―9 山口大工学部

▽同3、4位決定戦

岡山大 13―10 香川大

▽同1、2位決定戦

広島商大 21(6―7、15―4)11 愛媛大

九州産業大が初優勝
新進の抬頭目立つ

九州

◇第10回全九州学生選手権(トーナメント)◇5月20、21日◇長崎大ハンドボール場◇参加14校

一昨年優勝の鹿児島大が1回戦で、前年優勝の熊本商科大が準々決勝で敗退する波乱があり、過去6回優勝の西南学院も準決勝で九州産業大に押しまくられて敗れた。

決勝は九州産業大×福岡教大の新進同士で争われ、九州産大が前半鋭い攻撃で優位に立ち、後半の福岡教大の反撃をかわし初優勝を遂げた。福岡勢の優勝は3年ぶり。

▽1回戦

熊本大 25(10―6、15―7)13 福岡工大

東海 12(8―4、4―4)8 九州工大

福岡教大 16(6―5、10―7)12 熊本工大

西南学院 14(5―2、9―6)8 長崎大

長崎造船大 12(7―1、5―7)8 大分大

福岡大 17(9―5、8―4)9 鹿児島大

▽準々決勝

東海 17(8―8、6―6、……、3―3)17 熊本大

抽せんで東海大の勝ち

福岡教大 8(5―5、3―2)7 熊本商大

西南学院 18(12―2、6―3)5 長崎造船大

九州産大 22(12―0、10―8)8 福岡大

▽準決勝

福岡教大 18(10―3、8―7)10 東海

九州産大 20(9―5、11―3)8 西南学院

▽3位決定戦

西南学院 15(6―5、9―2)7 東海

▽決勝

九州産大 17(12―5、5―7)12 福岡教大

金沢工大、福井大破り3連勝

北信越

◇6月24、25日◇金沢大体育館◇参加6校

3校ずつ2組の予選リーグでは有力とみられた金沢工大、福井大が順当勝ち。

両者の決勝は、金沢工大が圧倒の攻守を示して快勝昨春から3連勝をマークした。3位は富山大。

▽予選リーグA組

金沢工大 14―8 富山大

富山大 22―16 金沢大

金沢工大 14―8 富山大

▽同B組

福井大 16―11 信州大

金沢美工大 20―18 信州大

福井大 30―5 金沢美工大

▽5・6位決定戦

金沢大 33(21―5、12―5)10 信州大

▽3・4位決定戦

富山大 29(15―6、14―5)11 金沢美術工芸大

▽決勝戦

金沢工大 27(12―5、15―7)12 福井大

東北大が逆転勝ち

▼第23回東北地区大学総合体育大会ハンドボール競技(ハンドボールは第18回、6月・東北大)

▽準々決勝

福島大 24―7 弘前大

山形大 21―20 秋田大

東北大 22―14 東北工大

仙台大 18―12 宮城教大

▽準決勝

東北大 13―8 福島大

仙台大 25―9 山形大

▽3位決定戦

福島大 24―21 山形大

▽決勝

東北大 19(8―9、11―4)13 仙台大

法政、日体(女)が連続優勝

第10回関東学生新人戦は5月25、26の両日東京・駒沢第一球技場に男子23校、女子5校が参加、トーナメントで行われた。

男子は法政が4試合で34点を叩き出した村田(1年、明星高出)の活躍を軸に2連勝、女子は日体が豊富な陣容を活かして日女体大を破り2連勝した。

▽男子1回戦勝者 中央、東京工大、立教、専修、東大、日大、芝浦工大

▽同2回戦勝者 早大、中央、慶応、芝浦工大、法政、東京工大、専修、関東学院

▽同準々決勝

芝浦工大 16―8 慶応

中央 21―6 早稲田

法政 20―6 東京工大

専修 12―9 関東学院

▽同準決勝

中央 11―10 芝浦工大

法政 20―5 専修

▽同決勝

法政 14(5―5、4―4、……、4―1、1―0)10 中央

▽女子1回戦(1試合)

日体 12―6 東京学芸大

▽同準決勝

日女体大 5―2 東京教大

日体 8―3 東女体大

▽同決勝

日体 16(7―2、9―2)4 日女体大

東海は名城が初優勝

◆第3回東海学生新人戦(5月・名城大ほか)

▽男子準々決勝

中京 26―4 南山

名城 21―9 岐阜大

名古屋工大 8―6 名大

三重大 14―12 愛知教大

▽同準決勝

中京 22―5 三重大

名城 31―8 名古屋工大

▽同3位決定戦

三重大 14―8 名古屋工大

▽同決勝

名城 20(12―7、8―7)14 中京

名城大は初優勝

▽女子1回戦(1試合)

中京 9―6 愛知教大

▽同決勝

中京 13(8―2、5―2)4 中京女大

中京大は初優勝。

早稲田、9度目の優勝

第12回早慶明3大学定期戦は6月3日東京・早大記念会堂で行われ関東4位の早稲田が秀れた攻撃力で明、慶を降し3年連続9度目の優勝を飾った。

早稲田 16(6―6、10―5)11 明治

明治 13(9―5、4―6)11 慶応

早稲田 22(12―7、10―5)12 慶応

【順位】①早稲田②明治③慶応

第23回全日本高校選手権
各県予選記録（上）

☆太字は代表校
☆6月15日まで報告分

東北

◇山形県（開催県）
▽男子決勝リーグ
大石田 11—7 新庄工
東根工 18—8 寒河江
大石田 21—7 寒河江
東根工 15—8 新庄工
新庄工 14—10 寒河江
大石田 7—5 東根工
【順位】①大石田②東根工③新庄工④寒河江。大石田は2年ぶり7回目、東根工は2年連続4回目の代表
▽女子決勝
竹田女 10—8 米沢女
竹田女は2年連続4回目、米沢女は2年ぶり4回目の代表

◇宮城県
▽男子1回戦（1試合）
仙台二 12—6 祇園寺
▽同2回戦
仙台育英 17—7 仙台二
古川商 15—14 電工
仙台商 19—6 鶯工
塩釜 9—8 築館
古川工 13—11 仙台三
古川 10—6 仙台
東北 13—6 東北学院
仙台一 16—11 宮城水産
▽同準々決勝
仙台育英 19—5 古川商
仙台商 8—7 塩釜
古川 12—4 古川工
仙台一 6—4 東北
▽同準決勝
仙台育英 13—4 仙台商
仙台一 5—3 古川
▽同決勝
仙台育英 25—7 仙台一
仙台育英は初の代表
▽女子1回戦（2試合）
三女 15—2 一女
二女 8—4 塩釜女
▽同準々決勝
古川女 9—3 三女
祇園寺 13—3 築館
古川商 11—1 仙台女商
涌谷 11—2 二女
▽同準決勝
古川女 6—4 祇園寺
涌谷 8—5 古川商
▽同決勝
涌谷 7—5 古川女
涌谷は3年連続20回目の代表

北信越

◇新潟県
▽男子準決勝
柏崎工 19—1 巻
柏崎 14—5 明訓
▽同決勝
柏崎 12—11 柏崎工
柏崎は8年ぶり4回目の代表
▽女子決勝リーグ
新潟女 12—1 明訓
巻 18—0 明訓
新潟女 3—2 巻
【順位】①新潟女②巻③明訓
新潟女は初の代表

◇長野県
▽男子決勝リーグ
屋代 18—5 佐久
坂城 11—9 上田
上田 21—11 佐久
上田 16—12 北佐久農
北佐久農 26—6 佐久
北佐久農 17—6 屋代
坂城 17—7 佐久
北佐久農 7—0 坂城
上田 18—6 屋代
坂城 16—7 屋代
【順位】①北佐久農（得失点差32）②上田（24）③坂城（14）④屋代⑤佐久
北佐久農は8年ぶり5回目の代表
▽女子決勝リーグ
北佐久農 15—3 美須々丘
小諸商 30—2 佐久
美須々丘 19—3 佐久
北佐久農 15—4 城南
小諸商 12—3 城南
北佐久農 34—2 佐久
城南 15—7 佐久
小諸商 17—5 美須々丘
城南 7—6 美須々丘
小諸商 9—2 北佐久農
【順位】①小諸商②北佐久農③城南④美須々丘⑤佐久
小諸商は11年連続11回目の代表

◇石川県
▽男子1回戦
小松商 12—6 金沢商
小松工 20—13 羽咋
県工 13—9 津幡
小松 13—11 松陵
星陵 12—9 金沢市工
▽同準々決勝
工大付 24—15 小松商
小松工 17—13 泉丘
県工 14—5 小松
星陵 16—11 二水
▽同準決勝
工大付 11—10 小松工
県工 13—11 星陵
▽同決勝
県工 16—8 工大付
県工は4年ぶり2回目の代表
▽女子1回戦（1試合）
金沢商 9—7 星陵
▽同準々決勝
小松市女 31—1 津幡
松任 11—2 珠洲実
北陸大谷 16—1 金沢商
小松商 20—4 羽咋
▽同準決勝
小松市女 19—3 松任
北陸大谷 10—6 小松商
▽同決勝
小松市女 13—2 北陸大谷
小松市女は8年連続11回目の代表

◇福井県
▽男子準々決勝
羽水 15—10 藤島
北陸 18—8 敦賀工
高志 11—6 武生商
若狭 6（分）6 福井商
▽同準決勝
羽水 12—5 北陸
高志 10（延）8 若狭
▽同決勝
羽水 19—7 高志
羽水は2年連続4回目の代表
▽女子1回戦（2試合）
武生商 7—0 藤島
若狭 7—3 羽水
▽同準決勝
福井商 8—1 武生商
高志 8（延）6 若狭
▽同決勝
福井商 7（延）6 高志
福井商は2年ぶり5回目の代表

関東

◇栃木県
▽男子1回戦
足利商 11—8 烏山商
▽同準々決勝
足利工 13—2 足利

宇都宮工 不戦勝 矢板中央
馬　頭 19―8 足利商
国学院栃木 24―3 石　橋
▽同準決勝
足利工 15―6 宇都宮工
国学院栃木 6―2 馬　頭
▽同決勝
国学院栃木 5―3 足利工
国学院栃木は3年連続5回目の代表

▽女子1回戦（3試合）
国学院栃木 31―0 足利商
馬　頭 17―2 矢板中央
栃木女 7―3 小山城南
▽同準決勝
国学院栃木 31―3 馬　頭
栃木女 13―2 足利女
▽同決勝
国学院栃木 7―6 栃木女
国学院栃木は2年連続2回目の代表

東海

◇静岡県

▽男子1回戦（3試合）
沼津工 11―10 清水東
修善寺工 24―8 春　野
静清工 11―7 御殿場南
▽同2回戦
清水商 33―4 沼津工
静岡東 12―0 裾　野
気　賀 28―7 吉原商
富　士 26―2 天竜林業
静岡農 26―4 静清工
浜松南 18―2 三島南
御殿場 17―3 二　俣
沼津東 13―2 修善寺工
▽同準々決勝
清水商 16―5 静岡東
富　士 12―4 気　賀
静岡農 11―4 浜松南
御殿場 19―8 沼津東
▽同準決勝
清水商 15―10 富　士
静岡農 10―9 御殿場
▽同決勝
清水商 11（延）9 静岡農
清水商は6年連続20回目の出場

▽女子1回戦
富士宮東 16―6 周　智
御殿場 8―2 清水女
沼津女 不戦勝 藤枝西
清水商 18―1 裾　野
吉　原 3―2 二　俣
▽同準々決勝
静岡城北 16―1 富士宮東
御殿場 11―6 浜松南
沼津女 4―3 清水商
清水西 4―2 吉　原
▽同準決勝
静岡城北 6―1 浜松南
清水西 7―4 沼津女
▽同決勝
清水西 6―3 静岡城北
清水西は初出場。

近畿

◇奈良県

▽男子1回戦（3試合）
奈　良 20―6 育　英
生　駒 24―5 十津川
畝　傍 14―7 榛　原
▽同準々決勝
奈　良 11―6 正　強
郡　山 13―8 桜井商
東大寺 6―4 生　駒
添　上 18―10 畝　傍
▽同準決勝
添　上 7（延）6 東大寺
奈　良 13（延）12 郡　山
▽同決勝
添　上 14―7 奈　良
添上は6年連続13回目の代表

▽女子1回戦（2試合）
添　上14―7奈良文化女短大付
生　駒 10―2 郡　山
▽同準決勝
添　上 8―3 桜井商
生　駒 8―4 十津川
▽同決勝
添　上 16―8 生　駒
添上は10年ぶり5回目の代表

◇和歌山県

▽男子決勝リーグ
新　宮 9―8 笠　田
県和歌山商 21―8 那　賀
桐　蔭 14―13 粉　河
御坊商工 13―4 笠　田
県和歌山商 21―11 新　宮
那　賀 13―10 粉　河
御坊商工 13―3 桐　蔭
県和歌山商 18―6 粉　河
桐　蔭 16―12 那　賀
御坊商工 10―5 新　宮
県和歌山商 19―8 笠　田
那　賀 10―8 新　宮
御坊商工 17―7 粉　河
桐　蔭 18―9 笠　田
御坊商工 15―6 那　賀
粉　河 12（分）12 笠　田
桐　蔭 18―13 新　宮
県和歌山商 11―9 御坊商工
笠　田 10―8 那　賀
新　宮 13―10 粉　河
県和歌山商 21―12 桐　蔭
【順位】①県和歌山商②御坊商工③桐陰④新宮・那賀⑥笠田⑦粉河
県和歌山商は3年連続13回目の代表

▽女子決勝リーグ
県和歌山商 19―5 貴　和
御坊商工 7―4 笠　田
粉　河 16―7 県和歌山商
御坊商工 16―2 貴　和
県和歌山商 13―8 笠　田
粉　河 19―0 笠　田
御坊商工 6―5 県和歌山商
粉　河 17―1 貴　和
笠　田 8―1 貴　和
粉　河 8―0 御坊商工
【順位】①粉河②御坊商工③県和歌山商④笠田⑤貴和
粉河は5年連続5回目の代表

◇大阪府～第1次予選～

▽男子1回戦
大　商 12―9 勝　山
城東工 19―10 茨　木
大阪学院 10―4 教大池田
北　野 13―11 桃　山
花　園 11―7 食品産業
枚　方 10―9 北　陽
泉　北 34―3 西野田工
清　風 16―9 高　津
上　宮 13―12 天王寺
寝屋川 19―17 関　電
千　里 18―17 春日丘
浪　商 24―22 阿倍野
八　尾 11―9 富田林
岸和田 12―9 箕　面
都島工 21―10 大阪市立
三国ヶ丘 28―2 三　島
▽同2回戦
堺　工 14―9 大　商
城東工 19―7 東淀川
池　田 11―9 大阪学院
北　野 24―5 東淀工
北　淀 14―13 花　園
枚　方 19―8 住　吉
鳳 26―7 豊　中
泉　北 29―8 淀川工
東住吉 18―9 清　風
上　宮 19―13 寝屋川
千　里 15―9 和泉工
浪　商 25―9 鶴見商
桜　塚 13―8 八　尾
岸和田 20―7 門　真
都島工 24―6 此花商
初　芝 8―7 三国ヶ丘
▽同3回戦
堺　工 16―13 城東工
北　野 15―11 池　田
枚　方 8―5 北　淀
鳳 17―9 泉　北
東住吉 13―11 上　宮
千　里 14―12 浪　商

岸和田 20-9 桜塚
都島工 10-4 初芝
勝者8校は最終（第3次）予選への出場権を獲得。

▽女子1回戦
池田 10-3 樟蔭東
清友 5-3 三国ヶ丘
鶴見商 12-7 岸和田
和泉 5-4 梅花
大谷 21-1 八尾
初芝 7-2 大阪女短付
豊中 不戦勝 食品産業
北淀 7-5 枚方
桜塚 6-4 門真
鳳 不戦勝 福島女
泉北 2-1 天王寺

▽同2回戦
住吉学園 7-1 池田
箕面 3-1 清友
鶴見商 13-3 和泉
大谷 7-2 寝屋川
初芝 5-1 東大阪
北淀 9-6 豊中
桜塚 4-1 鳳
春日丘 7-1 泉北

▽同3回戦
住吉学園 16-2 箕面
大谷 8-7 鶴見商
春日丘 13-1 桜塚
初芝 8-1 北淀
勝者4校は最終（第3次）予選への出場権を獲得。

中国

◇岡山県

▽男子1回戦（3試合）
大安寺 12-9 勝間田
矢掛 ・-・ 津山
邑久 12-11 金川

▽同2回戦
天城 32-1 大安寺
玉野 8-3 落合
津山工 13（延）8 操山
倉敷商 11-8 矢掛
倉敷工 8-7 児島
水工 12-7 岡山工
青陵 12-6 関西
津山商 15-3 邑久

▽同準々決勝
天城 19-1 玉野
倉敷商 19-10 津山工
倉敷工 16-5 水工
津山商 26-5 青陵

▽同準決勝
天城 16-8 倉敷商
倉敷工 11-6 津山商

▽同決勝
天城 12-9 倉敷工
天城は2年連続14回目の代表

▽女子1回戦（1試合）
岡山女 10-8 津山

▽同準々決勝
津山商 16-5 岡山女
金川 15-6 西大寺
落合 7-3 井原
真備 15-2 青陵

▽同準決勝
津山商 12-5 金川
真備 14-1 落合

▽同決勝
真備 10-8 津山商
真備は6年連続6回目の代表

四国

◇高知県

▽男子1回戦
吾北 33-10 園芸
伊野商 11-8 宿毛工
高知西 31-2 須崎
中芸 31-4 中央
追手前 15-8 須崎工

▽同準々決勝
土佐 18-7 吾北
高知西 19-3 伊野商
幡多農 9-5 中芸
中村 10-9 追手前

▽同準決勝
高知西 8-6 土佐
幡多農 13-6 中村

▽同決勝
高知西 8-7 幡多農
高知西は4年ぶり2回目の代表

▽女子1回戦（1試合）
伊野商 14-9 中芸

▽同準々決勝
城山 10-2 伊野商
中村 6-2 佐川
山田 7-6 幡多農
高知西 20-3 高岡

▽同準決勝
城山 12-0 中村
高知西 6-2 山田

▽同決勝
城山 5-2 高知西
城山は初の代表

◇愛媛県

▽男子1回戦
松山商 22-12 新居浜東
松山東 12-8 今治南
松山北 18-6 今治工
新田 26-9 新居浜商
今治西 11-8 松山北中島
吉田 11-6 松山南

▽同準々決勝
松山工 29-6 松山商
松山北 10-7 今治西
松山東 14-13 新田
新居浜工 21-2 吉田

▽同準決勝
松山工 7-6 松山北
新居浜工 14-2 松山東

▽同決勝
新居浜工 9（延）8 松山工
新居浜工は5年連続20回目の出場

▽女子1回戦（3試合）
今治明徳 7-5 新居浜西
新居浜東 21-3 今治西
大洲農 6-4 西条

▽同準々決勝
土居 20-3 今治明徳
新居浜商 21-3 今治南
新居浜東 8-3 東温
松山商 10-4 大洲農

▽同準決勝
新居浜東 6（延）5 土居
新居浜商 5-2 松山商

▽同決勝
新居浜商 3-2 新居浜東
新居浜商は6年連続6回目の代表

◇香川県

▽男子1回戦
高松一 19-7 土庄
多度津工 7-6 尽誠
高松商 15-10 丸亀
高松工芸 14-4 多度津水産

▽同準々決勝
三本松 15-2 高松一
多度津工 10-6 高松南
高松商 17-10 高松東
坂出工 13-12 高松工芸

▽同準決勝
三本松 11-5 多度津工
坂出工 12-8 高松商

▽同決勝
三本松 11-9 坂出工
三本松は4年連続4回目の代表

▽女子1回戦（1試合）
高松女商 17-1 観音寺商

▽同準決勝
三本松 14-1 高松女商
高松南 6-4 高松一

▽同決勝
三本松 13-1 高松南
三本松は2年連続7回目の代表

九州

◇長崎県

▽男子1回戦（1試合）
鹿町工 16-7 佐世保工定

▽同準々決勝
鹿町工 19-7 高島
佐世保北 16-2 造船大付
佐世保東商 16-15 西海学園
口加 11-6 長崎工

▽同準決勝
佐世保北 25-3 佐世保東商
鹿町工 13-7 口加

▽同決勝
佐世保北 11-10 鹿町工
佐世保北は4年連続4回目の出場

▽女子準々決勝
佐世保商 14-2 佐世保女
長崎北 12-1 日大諫早
島原農 15-3 島原南
佐世保北 16-7 西彼

▽同準決勝
佐世保商 9-3 長崎北
島原農 14-7 佐世保北

▽同決勝
佐世保商 12-0 島原農
佐世保商は2年連続5回目の出場

和洋女高（秋田）↔打田町北中地区（和歌山）

民泊で結ばれた友情の橋

○……初優勝した大会はいつまでも忘れられないものである。ましてや遠征先の見知らぬ人たちの熱心な応援があってのこととなれば、その想い出はいっそう強く深いものとなるだろう。

秋田和洋女高と和歌山県打田町北中地区の人たちとの交流は町ぐるみ、地域ぐるみの歓迎と声援で話題をまいた昨秋の国体のなかでもひときわ心あたたまる後日談を残した——。

○……30年近くになろうとする国体の歴史のなかでも打田町のハンドボール競技は記憶に永く留められるべき〝成功例〟であった。全チーム民宿という特異なケース。いっそそれなら町内各地域別の対抗にして盛りあげようと企った町の関係者の狙いは予想以上に燃えひろがった。

どの地域も太鼓を持ち出し、大きなのぼりを立ててての大応援。早々と負けてしまったチームの宿泊先の坊やが仲間に顔向けできないと泣き出す悲劇？まで生みだしたほどだが、北中地区の8家庭に分宿した和洋女高は絶好調、みごとに初優勝を飾ったから大変だ。地域の人たちはお祭りでもこうは騒ぐまいというほどの喜びよう。選手たちの感激も倍にも、3倍にもふくれあがった。郷里（秋田市）へ戻り、日が経つにつれ打田町の思い出は乙女心に熱くよみがえり誰からともなく文通がはじめられた。

○……「雪の秋田を見に来ましたよ」と北中地区の高橋敏行(51)さんをリーダーにした7人が秋田市を訪れ、選手たちと再会したのはまだ春にマのある時期だった。

「娘さんたちが一丸となっての優勝に感動しました。さてこれからと思った時にはもうお別れ。しばらくは地域全体が気の抜けたようでした。

文通だけでは物足りないし、3年生が卒業する前に是非……」

選手もこの突然のお客様に大喜びだった。今度は私たちが、と高橋さんたちをもてなし東北の冬の旅情をたっぷり楽しんでもらった。

○……和洋女高・大守善治校長はいう「……高橋さんたちがわざわざ秋田をたずねてくださったのには私たちの方がびっくりしてしまった。人と人とのつながり、行きずりの旅人に示す興味以上の人情相手を理解しようとする〝愛情〟に感激しました。そして、きずなとは、教育とは、チームワークとは、と、しみじみ考えさせられたことでした」（この項、4月25日付「秋田さきがけ」紙から）

○……選手たちは今秋の鹿児島国体にも是非出場、帰りに打田町へ立ち寄ることを楽しみにしている。北中地区と結ぶ友情のかけ橋はますます強く太いものになるだろう。

秋田和洋女高が昨秋の国体から持ち帰った最も大きなおみやげは「優勝の栄光」ではなく「人の心」であったようである。（Y）

各地の記録

大同製鋼が3連勝 本田技研及ばず

第8回東海実業団選手権は5月28、6月4日の両日愛知・刈谷市体育館に男子15、女子2チームが参加して行われた。

男子は予想どおりナショナルプレイヤーを中心とした大同製鋼（愛知）と本田技研（三重）が圧倒的な強さを見せて勝ち進んだ。2年連続両者の顔合せとなった決勝は、本田がいきなり3点を連取戸田の好技で大同の反撃を封じたが前半なかばから大同攻撃陣は得意のパス攻法にものをいわせ逆転後半一気にゴールを重ねて大勢を決め3連勝を飾った。

女子はトップクラスの田村紡（三重）とプラザー工業（愛知）が対戦、好試合を演じた末田村紡は22分辻のあげたリード点を守り切って辛勝、2年ぶり7度目の優勝となった。

△男子1回戦

三菱油化（三重）	20	8－3	12－5	8	タヨシ産業（愛知）
新日鉄名古屋（愛知）	22	11－3	11－3	6	大協石油（三重）
北陸電力（福井）	21	13－5	8－9	14	日本碍子（愛知）
本田技研（三重）	15	6－5	9－4	9	三友工業（愛知）
日本耐酸壜（岐阜）	22	13－8	9－12	20	豊田工機（愛知）
トヨタ車体（愛知）	23	7－7	16－7	14	日本合成ゴム（三重）
トヨタ自工（愛知）	19	9－7	10－10	17	日野自動車（静岡）

▽同準々決勝

大同製鋼（愛知）	26	13－3	13－5	8	三菱油化（三重）
新日鉄名古屋	20	13－4	7－3	7	日本耐酸壜
トヨタ車体	22	11－9	11－8	17	北陸電力
本田技研	26	13－4	13－3	7	トヨタ自工

▽同準決勝

大同製鋼	29	16－3	13－3	6	新日鉄名古屋
本田技研	24	12－1	12－6	7	トヨタ車体

▽同決勝
大同製鋼 17(8-5, 9-8)13 本田技研

得	【大同】		【本田】	得
0	柳川兄	GK	戸田	0
2	野田	FP	勝田	0
4	藤中		佐藤	4
3	加藤		新実	3
3	中井		末岡	1
3	松原		林	2
2	北村		岩本	0
0	柳川弟		宮川	0
		(審・田中、鈴木)	星野	3
17	(3)	7MT	(1)	13

▽女子決勝
田村紡 9(5-5, 4-3)8 ブラザー工業

得	【田村】		【ブ工】	得
0	久保	GK	佐藤	0
			井戸田	0
1	沖	FP	森	0
1	三毛		藤浪	3
3	広森		金村	0
1	金田		鳥居	3
2	辻		藤田	0
1	久保田		長塚	2
0	坂本		原川	0
0	笠		森本	0
0	東		平	0
0	若林	(審・野村、田中)		
9	(0)	7MT	(1)	8

海上佐世保が順当勝ち

第1回北九州地区自衛隊駐とん地対抗選手権は5月27日福岡・久留米市の陸上自衛隊球技場に5チームが参加して行われ、全日本自衛隊選手権3位の海上佐世保地方隊(長崎)が順当勝ちした。

▽1回戦(1試合)
第4特科連隊 16(8-10, 8-5)15 幹部候補生学校B

▽準決勝
佐世保地方隊 39(16-5, 3-2)7 第4特科連隊
幹部候補生学校 29(11-1, 18-4)5 108施設大隊

▽決勝
佐世保地方隊 15(6-6, 9-5)11 幹部候補生学校

小松市女、伝統の強味

▼石川県高校春季大会(5月・松任高ほか)

▽男子準々決勝
泉丘 18-13 津幡
二水 17-14 星稜
工大付 22-2 金沢商
県工 13-7 金沢市工

▽同準決勝
工大付 7-5 県工
二水 19(分)19 泉丘
抽せんで二水高の勝ち

▽同決勝
工大付 17(11-4, 6-8)12 二水

▽女子準々決勝
北陸大谷 14-3 金沢商
小松市女 29-0 津幡
羽咋 9-5 星稜
松任 不戦勝 珠洲実

▽同準決勝
小松市女 14-2 北陸大谷
羽咋 7-4 松任

▽同決勝
小松市女 23(7-0, 16-0)0 羽咋

学生勢力が上位占める

▼石川県一般男子春季大会(5月実践倫理会館ほか)

▽準々決勝
金沢高専 20-18 金沢大
二交ク 22-17 小松製作所
金沢市役所 不戦勝 羽咋ク
金沢工大 40-2 金沢美工大

▽準決勝
金沢高専 没収試合 金沢市役所
金沢工大 24-21 二交ク

▽決勝
金沢工大 28(16-6, 12-9)15 金沢高専

一般は男女とも都城ク

▼第26回宮崎県民体育大会ハンドボール競技(5月・宮崎)

▽一般男子決勝リーグ
延岡ク 17-6 串間ク
都城ク 14-9 延岡ク
都城ク 33-20 串間ク

▽同女子決勝リーグ
都城ク 9(分)9 宮崎ク
小林ク 12-6 宮崎ク
都城ク 9-5 小林ク

▽高校男子準決勝
宮崎工 15-5 都城工
日南工 16-5 西都商

▽同決勝
日南工 17(7-2, 10-7)9 宮崎工

▽同女子準決勝
泉ケ丘 19-4 西都商
小林商 16-4 都城西

▽同決勝
泉ケ丘 8(3-4, 5-3)7 小林商

男女とも混戦模様

▼神奈川県春季高校選手権(5月日野高ほか)

▽男子決勝リーグ
一商 21-10 湘南通信
多摩 12-9 桜丘
湘南通信 12-7 桜丘
多摩 8-7 桐蔭
一商 16-7 川和
川和 12-6 桐蔭
川和 8(分)8 桜丘
多摩 15-11 湘南通信
一商 29-13 桐蔭
一商 12-8 桜丘
桐蔭 11-10 湘南通信
桐蔭 11-6 桜丘
一商 15(分)15 多摩
川和 12-6 湘南通信
川和 10-5 多摩

【順位】①第一商業②川和・多摩④桐蔭学園⑤湘南通信(少年工科校)⑥桜丘

▽女子決勝リーグ
東 9-8 京浜横浜
明倫 6-3 市川崎
上溝 13-2 南
東 5-3 市川崎
上講 10-8 京浜横浜
明倫 7-6 南
東 9-3 明倫
京浜横浜 15-10 南
上溝 13-1 市川崎
上溝 14-6 東
市川崎 7-5 南
京浜横浜 7-3 明倫
東 12-4 南
上溝 8-5 明倫
京浜横浜 5-4 市川崎

【順位】①上溝②東③京浜横浜④明倫学園⑤市川崎⑥南

男子で都島工初優勝

▼第26回大阪府民体育祭高校の部（5月・三国丘高ほか）

▽男子準々決勝
堺　工 24―9 北　野
鳳 13―8 枚　方
東住吉 17―13 千　里
都島工 15―13 岸和田

▽同準決勝
堺　工 9―7 鳳
都島工 16―14 東住吉

▽同決勝
都島工 12（6―7、5―4、1―0、0―0）11 堺　工
都島工は初優勝

▽女子準々決勝
住吉学園 16―2 箕　面
大　谷 8―7 鶴見商
春日丘 13―1 桜　塚
初　芝 8―1 北　淀

▽同準決勝
住吉学園 10―3 大　谷
春日丘 4―2 初　芝

▽同決勝
春日丘 4（0―1、4―2）3 住吉学園
春日丘高は5年ぶり2回目の優勝

女子、青森西高が好調

▼第22回青森県高校選手権（5月　柏木農高）

▽男子第1ラウンドA組
三本木 19―3 五所工
青　森 12（分）12 五所工
三本木 14―8 青　森

▽同B組（1試合）
鰺ケ沢 20―9 七　戸

▽同C組
柏木農 22―9 青森東
弘前南 9―6 青森東

▽同D組（1試合）
柏木農 9―8 弘前南
十和田工 18―7 青森商

▽同決勝トーナメント1回戦
三本木 10―9 鰺ケ沢
十和田工 17―15 柏木農

▽同決勝
十和田工 11（4―6、7―4）10 三本木

▽女子決勝リーグ
青森西 11―2 三本木
柏木農 10―9 七　戸
青森西 19―6 柏木農
三本木 17―5 七　戸
青森西 24―0 七　戸
三本木 12―9 柏木農
【順位】①青森西②三本木③柏木農④七戸

佐世保勢、強味示す

▼第7回長崎県選手権（4月・佐世保商高）

▽一般男子決勝
海上自衛隊佐世保 16（6―7、8―7 …… 2―2）16 佐世保ク
抽せんで海上自衛隊の勝ち

▽高校男子決勝リーグ
長崎工 10―7 鹿町工
佐世保北 20―4 西　海
佐世保北 29―4 長崎工
鹿町工 21―8 西　海
長崎工 19―8 西　海
佐世保北 17―8 鹿町工
【順位】①佐世保北②長崎工③鹿町工④西海

▽同女子決勝リーグ
佐世保商 17―4 佐世保女
島原南 13―7 長崎北
佐世保商 19―2 島原南
佐世保女 16―11 長崎北
佐世保商 18―6 長崎北
佐世保女 14―7 島原南
【順位】①佐世保商②佐世保女③島原南④長崎北

▼第5回沖縄県一般・教員選手権（4月・那覇）＝男子のみ

▽一般決勝
琉球大OB 18（8―5、10―9）14 那覇商OB

▽教員決勝
沖縄工高教員 20（10―5、10―11）16 南農教員

宮崎理事長に富永氏　宮崎協会は新役員を発表した。
▽会長　谷口富夫（都城西高校長）▽理事長　富永篤美　▽副理事長　堀之内真澄▽事務局　宮崎県都城市都原町三四〇五・都城西高校内

読者投書欄　明日への提言

日韓ナショナルの定期戦

近年の日韓両国の交流は極めて多範囲に亘っているようだが肝心のナショナルチームの顔合せということにあまり話合いが行われていないようなのは理由があるのだろうか。

昨秋のオリンピックアジア予選で我々はもとより協会関係者までもが、韓国ナショナルの実力をギリギリまで把握し得なかった不安を聞くにつけ、両国トップの対戦に積極的な企画をなすべきではなかろうか、と思う。

オリンピックはもとより、今後は世界選手権（男女）でもアジア予選の可能性が出ていると伝えられているだけに、ナショナルの対戦は互いの腹の内、手の内を探りあう思惑がからんでスムースに実現の道を歩めるとは思えないが、いつまでも放置しておく問題ではあるまい。

1年ごとはムリとしても2年に1度程度の〝ナショナル定期戦〟を是非実施するよう両国協会の努力を期待する。【東京・木村紀夫・会社員】

編集後記

史上初のオリンピック候補も決定し、いよいよオリンピックも2ケ月足らずのところにきてしまった。

史上最強のチームができたことは36年ぶりのオリンピックのためにきわめて喜ばしいことです。

オリンピックをはじめとして、夏は国内の大きな行事が目白押し。

従来から行なわれている実業団選手権、インターハイ、教職員、それに今年から開始される中学校選手権、ファンの皆さんも東に西に耳や眼を注いでおられることでしょう。

オリンピックの陰に隠れがちですが、中学校選手権、画期的な事業です。ぜひとも成功裡におわらせたいものです。

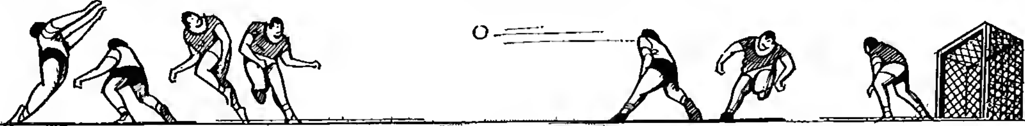
こうしたことから、各地に種々の新しい芽が生まれていくことが期待されます。ぜひとも成功裡に終了させたいものです。

投稿が増え感謝しています。身近なニュースも是非お送り下さい。

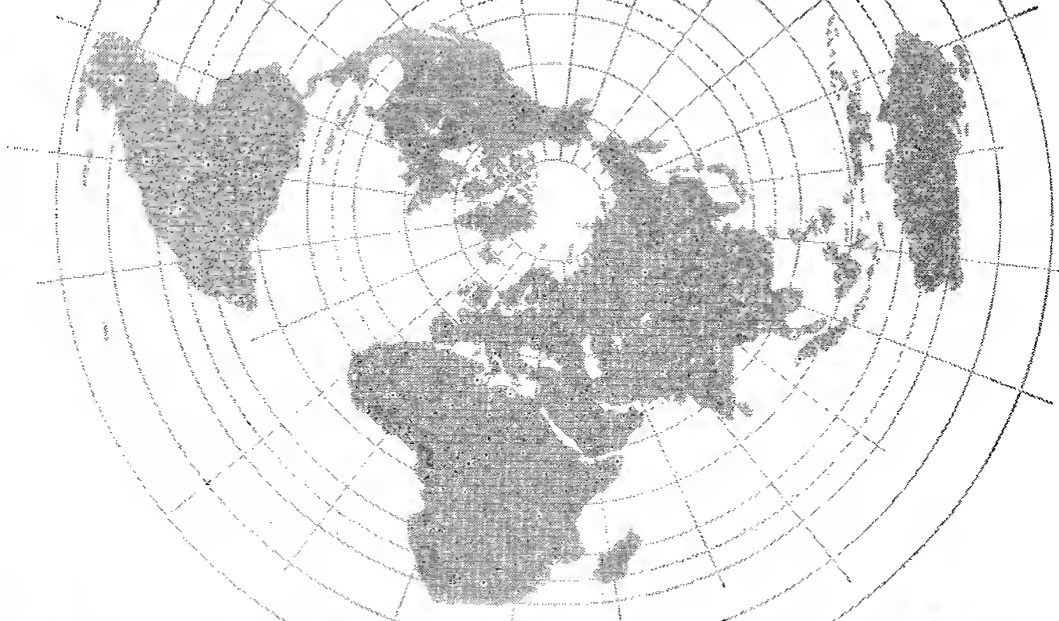
（T・F）

編集部より　本誌は各チームにお送りしていますが本号より、この年の登録された住所に送ることになります。4～6月号未着のチームあるいは住所の変更があった際にはすぐにお知らせ下さい。

信頼のパス――世界をつなぐブラザー



アメリカ
カナダ
アイルランド
西ドイツ
ベルギー
イギリス
フランス
ノルウェー
オランダ
オーストリア
ギリシャ
スウェーデン
ハンガリー
スペイン
ポルトガル
イタリア
ユーゴ
フィンランド
スイス
デンマーク
ジブラルタル
アイスランド
マルタ
ソ連
ペルー
アルゼンチン
チリー
パラグアイ
ブラジル
ベネゼラ
メキシコ
コロンビア
ハナマ
コスタリカ
ニカラガ
ジャマイカ
ボリビア
エルサルバドル
エクアドル
グァテマラ
仏領西インド諸島
ホンジュラス
蘭領ギアナ
仏領ギアナ
ドミニカ
トリニダードトバコ
バルバドス
南アフリカ
エジプト
ガーナ
ナイジェリア
ケニア
ローデシア
マダガスカル
リビア
モーリシャス
エチオピア
コンゴ共和国
リベリア
アンゴラ
セネガル
ダホメ
ポートギニア
カナリア諸島
象牙海岸
スペイン領ギニア
トーコ
ウガンダ
コンゴ民主共和国
仏領ソマリーランド
中央アフリカ
カメルーン
ソマリー共和国
タンザニア
琉球
台湾
香港
南ベトナム
インドネシア
フィリッピン
シンガポール
カンボジア
アフガニスタン
パキスタン
タイ
ネパール



確かなプレーが、チャンスをつくるように、確かな製品でくらしに役立ちたいと願うブラザー。
〈もとのもとから創る〉という、ガンコなまでの品質至上主義で、世界の国々から信頼されています。





日本ハンドボール協会編『ハンドボール』
第九十九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十七年六月二十五日印刷 昭和四十七年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百円（年間購読料千八百円）